

ナ定タル質地ナルニヨリ期限ヲ過キタル上ハ已ニ流地トナリタル
 ナリ若シ原告共ヨリ年貢諸役ヲ勤タリト云フヲ以テ實地ト證書面
 ト齟齬スルニ付尋常ノ貸借ナリトセン歟何ヲ以テ原告共ヨリ九箇
 年或ハ十ヶ年間小作米延滞致シタル旨ヲ以テ慶應二年被告竹内へ
 年賦ヲ以テ納ムヘキ旨ノ詫入一札ヲ差入レ庄屋村役人之ニ調印シ
 タルヤ又明治五年原告共ヨリ竹内へ小作證文ヲ差入レ貴殿代人ヲ
 以テ貢租諸役ハ私共悉皆之ヲ勤ムル旨ヲ明記シ組合村役人之ニ調
 印シタルヤ右詫入一札小作證書ハ原告共モ亦質地ノ流地タルヲ承
 知シテ被告竹内ノ小作人タルヲ諾シ小作米延滞ヲ詫入レ其上小作
 證書中代人ノ二字ヲ記載シ置キタル上ハ原告共ノ貢租諸役ヲ勤ム
 ルハ即チ地主竹内ノ代人トナリ竹内ノ爲ニ勤ムルモノニシテ自己
 ノ爲ニスル者ニ非ス左スレハ慶應二年ノ詫入一札ト明治五年ノ小

作證文ハ原告共於テ自ラ期限アル質地ノ期限ヲ過コシテ流地トナ
 シ竹内ノ所有ニ歸セシメタルノ證ニシテ尋常抵當貸借ノ證ニ非ス
 トス

第二條

假令質地ノ契約タルモ被告竹内ニ於テ村役場ノ帳記ニ名前ヲ書改
 メス又其地ノ何處ニアルヲ知ラス又タ天保以來三度ノ割地アリタ
 レ其時々割地ヲ受ルヲ求メス是ノ如ク竹内ニ於テ質流地ノ手
 順ヲ盡サ、ルハ畢竟尋常貸借タルヲ默許シタル故ニシテ右地ノ
 所有竹内ニ移ラサルノ證ナリト申スト雖モ第一條ニ辨明スル如ク
 文化年間以來ヨリ慶應二年明治五年迄質地證書小作滯米證書小作
 證文等數通ヲ差入レ皆村役人之ニ調印スル上ハ其質流地タルヲ
 村役人ノ公許シタルモノナリ既ニ村役人ノ公許シタルモノナルモ

ハ只其流地ノ手順ヲ盡サ、ルト云フヲ以テ未タ竹内ニ所有ノ移ラ
サルトノ申分ハ其効ナキモノトス

第三條

明治五年ノ小作證書ハ被告竹内ニ強迫セラレテ之ヲ差入レタル者
ナリト申立ルト雖モ竹内ハ唯小作人へ德米ノ延滞ヲ促セシノミニ
テ絶テ暴動脅迫ノ證據ナシ何ントナレハ右ノ小作證書ハ三十五人
ノ連名ニシテ村役人ノ調印アリ夫レ三十餘人ノ多數ヲシテ一人ノ
竹内ニ強迫セラレタリト爲ス歟決シテ此理ナキヲナリ況ンヤ三十
五名各通ノ證書ニ村役人親類組合等之レニ連印シタルモノ有ルノ
ミナラス更ニ其以前慶應二年ノ小作滞米詫一札及小作滞年賦規定
書アルヲヤ然レハ此小作證文ハ實ニ雙方正意ヨリ出タル承諾ノ證
書ナリトス既ニ承諾ノ證書タレハ是レ兵作等ニ於テ明カニ流地ト

ナリテ竹内ノ所有タルヲ承諾シタルモノトス

第四條

此件ノ如キハ未タ適當ノ法律アラス故ニ宜シク實際ニ付條理ヲ推
究シテ裁判アルヘキニ東京上等裁判所ノ裁判ハ否ラスト謂フト雖
モ凡證書ハ後日契約ニ違背セサルヲ豫防スルモノニシテ事實ヲ證
スルノ證書ナリ證書ト事實ト相反セハ何ソ證書ヲ要センヤ故ニ
證書ト事實ト相違スルトノ申立ハ立難シトス若シ原告ニ於テ被告
ト別段ノ契約ヲナシ反對ノ書面ヲ取置キ文化以來ノ證書ヲ破ルニ
足ルモノアラハ格別ナリト雖モ原被告ノ間ニ於テ毫モ其事ナキハ
之ヲ條理ニ考ヘ之ヲ定規ニ問フモ文化以來ノ證書ニ據ラスシテ又
タ何ニ據テ其事實ヲ徵スヘキモノアラシヤ

判決

六九一 前文ノ條理ナルヲ以テ本院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ハ條理ニ適シタル者トス因テ上告狀下戻ス者也

第二十七號

○約定違變一件申渡書 明治九年七月七日上告
明治九年七月八日申渡

秋田縣下羽後國仙北郡

金澤前鄉村平民

原告人

本間四郎左衛門

同縣下同國同郡同村

平民

原告代言人

本間正之助

其方ヨリ秋田縣下羽後國仙北郡飯詰村農江畑宇三郎ニ對スル應援金約定違變一件今般上告ニ及フ處右ハ明治九年四月二十四日宮城上等

裁判所ノ裁判申渡ヲ受ケタル翌二十五日ヨリ明治九年七月七日本院ニ於テ上告狀ヲ受取リタル日マテヲ總算スルニ日數七十四日ニ相成其内ニテ上告期限二箇月ノ日數六十日ト宮城上等裁判所ヨリ本院ニ至ルノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フル日數十一日ト引去剩ル所ノ日數三日ニテ即チ明治八年第九十三號布告控訴上告手續第十五條上告ヲ爲サント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月内ニ直チニ上告狀ヲ大審院ニ捧クヘシト云ヘル定期ヲ過キタルモノトス依テ上告狀差戻候事

第廿八號

○後見差拒金穀過取立一件申渡書 明治九年七月十八日上告
明治九年七月廿四日申渡

茨城縣下常陸國行方郡

水原村農

原告人

内堀 縫 松

内堀 縫 松 祖父

原告代理人

内堀 忠 右 衛 門

其方ヨリ茨城縣下常陸國行方郡水原村戸長小沼甫平へ對スル後見差拒金穀過取立一件今般上告狀差出候處右ハ未タ控訴ヲ經サルモノニ付明治八年第九十三號布告控訴上告手續第十四條民事ノ上告スルヲ得ル者ハ已ニ上等裁判所ニ控訴シ其審判ヲ經タル者ニ限ルト云ヘルニ據リ本院ニ於テ受理スヘキ理由無之依テ上告狀下戻シ候事

第廿九號

○新規杭木打建難澁一件申渡書 明治九年七月廿五日上告 明治九年七月廿六日申渡 東京府下第十大區五小 區小臺村七十八番地屋

敷農

原告人

小 泉 長 兵 衛

同府下同區同村

七十五番屋敷副戸長

被告人

小 泉 貞 吉

控訴上告手續第十四條ニ民事ノ上告スルヲ得ル者ハ已ニ上等裁判所ニ控訴シ其審判ヲ經タル者ニ限ルトアリ本件ハ未タ控訴ヲ經サルニ付上告狀却下候事

第三十號

○地所境界爭論ノ件上告ノ判文 明治八年八月三十一日上告 明治九年七月二十八日申渡 新潟縣下蒲原郡第十七 大區小六區今町新田商

原告

佐藤庄五郎

東京第三大區四小區
飯田町二丁目八番地

代言人

今關勘助

新潟縣下蒲原郡

今町新田商

被告

武石佐平治

同人男

代言人

武石富八

新潟縣廳ノ審判

原告 佐藤庄五郎訴訟ノ要旨

天保十一年十一月中居屋敷裏地拾四步今町新田佐藤能右衛門ヨリ

買受所持シタルトコロ明治元年六月中村方過半兵燹ニ罹リ其以來
被告武石佐平治屋敷ト境界錯亂セルヲ以テ明治七年七月中村役場
ニ申立村用掛石田甚衛并ニ佐平治立會ノ上検査シタルニ南北地境
標木ト覺ユヘキ打込ノ杭アルヲ以テ右ニ照準シ境界ヲ定メ度シト
談判シタルトコロ甚衛ヨリ北ノ分ハ地境杭ト認ムルモ南ノ分ハ佐
平治ノ屋敷外ニアリテ地境杭ト決定シ難キ故雙方熟談ノ上境界相
定ム可キ旨ヲ申聞ケルニ付澀谷善平大平林治立入示談スト雖モ相
整ハス今町新田ノ儀ハ舊來地所賣買家立等ハ勿論地境錯亂セルト
キハ村役人立會境杭打立ツヘキ習慣ニテ右南北ノ杭打立ノ年月ハ
知ラサレトモ地境標木ニハ相違ナキヲ以テ右兩杭ヨリ線ヲ引クト
キハ一步六厘佐平治ノ侵入シタルニ付右一步六厘ノ地所取戻シ度
ト

被告 武石佐平治答辨ノ要旨

天保四年四月中今町新田商佐藤能右衛門持地ノ内七十一歩其後年月ハ記セス右隣地十五歩買受所有シタルニ明治七年七月中原告佐藤庄五郎儀屋敷地境錯亂セシトテ検査スヘキ旨談判アリ固ヨリ錯亂セルトナキハ判然タレトモ村用掛石田甚衛立會取調タルトコロ北ノ杭ハ地境塹底ニアリ判然認メ難ク南ノ杭ハ原告所有地ヨリ四尺餘隔リアレハ地境杭トハ覺ヘス然ルニ原告此ノ兩杭ヲ標木トシ右ニ照準シ地境ヲ定メ自分持地ノ内一步六厘ノ地ヲ合併セント欲スレトモ右地境舊來溝堀廻シアリテ且明治元年六月原告居宅焼失跡ニ七箇ノ礎存在シ是ニ照準スレハ現今雙方地形ノ儘ニテ出入ナク境界判然タリ然ルニ庄五郎ハ數十年ヲ經過シ今日ニ至リ爭論ヲ起スモ其詮ナシ因テ舊來有形ノ通雙方所有スヘキ様原告人へ理解

有リ度シト

判文ノ要領

原被申立ニ付權少屬富塚直大出張實地檢分ノ上裁決スル如左
 一南杭ハ原被屋敷外ニアルヲ以テ證據トナシ難ク北杭ハ地中ニ埋没シ判然認メ難ク別ニ照合スヘキ約定書モナク兩杭ハ地境ノ標木ト官難シ

一該論地ニ現存スル被告ノ土藏ハ明治元年七月中ノ建築ニテ周圍ノ溝渠自ラ境界ノ姿ヲ爲セリ果シテ地境ヲ超越シタルハ數年黙止スルノ理ナク又原告燒失宅舎ノ礎右溝ニ沿ヒ存在セル上ハ從前ノ地形ニテ雙方所有ノ地境ト心得ヘシ
 明治八年四月七日

東京上等裁判所ノ審判

原告 佐藤庄五郎控訴ノ要旨

第一條 新潟縣廳ノ審判ニ南杭ハ原被屋敷外ニ在ルヲ以テ證據ト爲シ難キ云々ト有レトモ南杭ノ儀ハ戶長等調印ノ地券下調地引繪圖面ニ判然タル直線境界ノ定杭ナリ

第二條 北杭ハ地中ニ埋没シ判然認メ難キ云々ト有レトモ北杭ハ地境ノ溝底ニ打込アリテ埋没セシニ非ス且檢地以來村法一般畝杭ヲ用ヒ境界定メ來リタルコトニテ右南北杭ハ即チ境界明確ノ定杭タルヲ採用ナラサルハ公平ノ裁判ニアラストス

第三條 別ニ照合スヘキ約定書モ無ク兩杭地境ノ標木ト言難シト有レトモ右標杭ハ一般村法ニ依リ打立テシモノニテ且ツ明治五年中自分商業ニテ大坂へ出立シ右留守中無斷境界押出シ雪隠並小屋等引移シ又ハ溝渠堀廻シタルニ付歸宅後速ニ掛合ヒタルニ暫時此儘ニ据置カレ度旨頼談ニ付近隣ノ好誼モアリ又境杭モアルヲ以テ其

儘差許シ置キタルモノニテ固ヨリ約定書取置不申然ルニ約定書ナキヲ以テ採用アラサルハ服シ難シ

第四條 右論地ニ現存スル被告ノ土藏ハ明治元年七月中ノ建築ニシテ果シテ地境ヲ超越シタルナレハ數年黙止スルノ理ナシト有レトモ右ハ手重ク土藏ト申モ全ク小屋ニ附下シタル藁屋ニシテ明治五年ニ引移シタルモノナリ而シテ前條ニ申ス如ク自分歸宅後被告ノ依頼ニ任セ村法ノ定抗アルヲ以テ差許置キタルモノニテ數年間黙止シ今日ニ至リ初テ申立タルニ非ス

第五條 原告燒失宅舎ノ礎右溝渠ニ沿ヒ存在スル上ハ従前ノ地形ニテ地境ト定ムヘシト有レトモ其殘礎ハ南北定抗ノ直線ニ倣ヒタルモノニシテ被告ノ押出シタル周圍ノ溝渠ハ北ヨリシテ漸々南ニ向ヒ開キタルモノナリ故ニ北方ノ礎ハ被告ノ雨落チ離ルト雖モ南

方ノ二礎ノ如キハ既ニ被告雨落ノ直下ニアリテ被告ハ己レノ除ケ
 歩ノ一尺五寸ヲ越ヘテ原告持地へ一步六厘ヲ侵入セリ然ルニ従前
 ノ地形ヲ以テ雙方ノ地境ト定ム可シトハ公平ナラサルモノトス
 第六條 被告侵入ノ地明治七年中入用ニ付差戻ノ談判シタルニ被
 告不當ヲ申募ルヲ以テ村用掛等ヨリモ説得セシト雖モ更ニ聞入サ
 ルニ付明治七年十二月九日三條取締所長富塚直大巡村ノ節村用掛
 ヨリ臨時檢分願ヒタルニ論地尋問ハ勿論竿打繩張モナサス然ルニ
 判文ノ初項ニ權少屬富塚直大出張實地檢分ノ上裁決スルトアルハ
 了解シ難シ 明治八年五
 月二十五日

判文

南北ノ杭木ハ慥カナル境界ノ目標ナリトノ申立ハ他ニ照應ス可キ
 物モ無ク而シテ地券下調繪圖面ハ被告建家造營ノ後ニ出來セシ

ニテ村用掛ノ申立書并彼我質取ノ證文等ハ總テ實地境界ノ確證ト
 爲スニ足ラス依テ控訴ノ趣意不相立事 明治八年
 八月八日
 大審院ノ審判

原告 佐藤庄五郎代言人今關勘助上告ノ要旨

第一項 初審裁判所判文中權少屬富塚直大出張實地檢分トアレヒ
 右ハ直大巡村ノ節臨時檢分ヲ願ヒタルニ一旦立寄ラルト雖モ論
 地標木檢査等ハアラサリシニ檢分ノ上云々トアルハ解シカタシ
 第二項 同判文中南ノ杭ハ原被屋敷外ニ在リトアレトモ地界杭木
 ハ古來ヨリノ村法ニテ右論地四箇ノ杭木ハ元地主佐藤能右衛門所
 有ノ時一地面ナリシヲ能右衛門之ヲ三分シ甲乙ハ原告へ讓リ丙ハ
 被告へ讓リシ時打立南ノ杭ハ甲乙地境ノ標木ニテ右へ鉛直照準ス
 へキ北ノ杭アルニ於テ方斜ハ一面ニ地所狹ル可キ謂レナク且西隣

六太郎地所東北ノ隅并勘六地所東南ノ隅ニモ杭木アレハ被告論地ノ斜面東南ノ隅ニモ杭木アル可キ筈ナルニ曾テ其標木ナキニ於テハ甲乙地境ノ標木ト乙丙丁地境ノ標木トテ以テ其經界ヲ定メサルヲ得ス

第三項 同判文中北ノ杭ハ地境溝底ニ之レ有トアレモ杭木ヲ地上ヘ打出シ置クトキハ通行ノ障礙ナルヲ慮リ平面ヨリ四五寸埋込置キシモノナリ

第四項 同判文中ニ別ニ照會スヘキ約定書モ之レ無シトアレトモ古來ヨリ埋立タル杭木ノ現存シタル上ハ別ニ原被爲取替ノ約定書アル可キ謂レナシ

第五項 同判文中雙方ノ杭今般地境論ノ證據ニハ立ストアレモ此ノ杭木ハ境界ノ標木ニシテ村内數千本アリテ皆確證トナル可キモ

ノナリ實地検査アラハ其證憑明白ナラン

第六項 同判文中論地ニ現存スル被告所有ノ土藏トアレトモ右ハ梁間二間桁行三間ニテ屋根ハ小板ヲ並ヘ上ニ大小ノ石ヲ載セ置キタルモノニテ土藏ト申程ノモノニアラス且明治元年迄ハ原告舊礎ヘ隣リ被告ノ物置小屋アリシトコロ明治五年五月中原告旅行中斷ハリナク今ノトコロヘ轉移シ圖中斜面ノ角ヘ柱建イタシ北方ヘ斜ニ建設シテ遂ニ侵入シタルモノナリ

第七項 同判文中周圍溝堀廻シ自ラ境界ノ姿トナセリトアレトモ溝ノ儀ハ家作造營ノ時大小家屋ニ拘ハラス必ス雨落ニ溝堀廻スハ村内ノ慣習ニテ固ヨリ堰板石垣ヲ用ヒタルモノニ非ス故ニ村役場ニ届出ルヲナク銘々便宜ニ堀立ルモノナルヲ以テ境界ノ證トハ爲シ難シ況ヤ論地ノ溝ハ全ク假堀ナルヲヤ

第八項 同判文中原告ヨリ地境侵入シタルナレハ數年黙止スルノ理ナシトアレトモ右ハ明治五年五月中自分儀大坂へ商用ニ發足シタル留守中被告ニ於テ無沙汰ニ侵入シテ新規溝渠ヲ堀廻セシモノニテ同年八月中歸郷後屢々談判ニ及ヒタルニ原告入用ノ時迄其儘ニ据置キ吳可キ旨被告ノ頼談ニ任セ別段借地證文ヲ取置カス隣家ノ好誼ヲ以テ見許シ置タル儀ニシテ敢テ默許シタルコトナシ右溝ハ小土腐ニテ深サ三四寸位ノモノユヘ戊辰ノ兵燹ニテ原被ノ宅舍焼失ノ時灰燼ニ埋リタルニ付新ニ堀立ツルモ手數ナキヲ以テ原告留守中暫時ノ間ニ堀立タルモノナリ

第九項 同判文中ニ原告焼失宅舍ノ礎ハ右溝ニ沿ヒ存在セリトアレトモ北方第一ノ石ハ中央ヨリ乙丙地ノ境界マテ壹尺五寸ヲ隔テ乙丁地ノ境界ハ溝ノ東側ヨリ石ノ西側マテ凡四寸ヲ隔テ且第一ヨ

リ第七ノ石ニテ直線ニ据ヘタルモノニ付第七ノ石へ溝一寸モ掛リ居レハ舊礎ハ今ノ溝筋ニ沿ヒタルモノニ非ス

第十項 東京上等裁判所ノ判文中地券下調繪圖面ハ被告建築後ニ成ルトアレトモ右繪圖面ハ地券調發令ノ節天保度古繪圖面書上ノ通村役人ヨリ寫取リタルモノニテ被告人建家造營ノ後ニ成リタルニ非ス且乙ノ地質地古證文ニハ十四步ト有レトモ土地慣習ニ内反別ト唱フル質地ノ步數アリ右ニ依レハ該地ハ十九步七分八厘アル可キ筈ナルニ畝步不足シテ地券面ニ符合セヌ又甲ノ地モ古檢步數ハ二十四步ナレトモ内反別三十三步七分二厘アリテ乙地ノ步數ニ合併セハ五十三步三尺ニシテ村役場地券下調步數ニ適當シクシレハ被告侵入ノ證顯然タリ

被告 武石佐平治 武石富八 答辨ノ要旨

第一項 明治七年十二月中論地ノ儀ハ原告人ヨリ三條出張所へ出訴シタルニ付富塚直大出張區戸長并原被共立會ノ上實地檢分アリタルニ原告不服ナルヨリ本縣へ廻サレタルモノナリ

第二項 原告繪圖面ヲ以テ觀シハ南杭ハ甲ノ地ト道トノ境杭ノ如クナレトモ實ハ其間相距ル二尺二三寸ニシテ西隣六太郎所有ノ地境トハ相距ル四尺二三寸許リナレハ畢竟通路中央ノ標木ト見做ス可ク且ツ原告ニ於テハ甲乙丙割ノミチ申立ルモ元來甲乙丙丁戊共悉皆能右衛門ノ所有地ナルトコロ天保四年ヨリ分割シ丙丁戊ハ自分買受其後甲乙ハ原告買受タルモノニテ其杭木ノ甲ノ地ヲ距ルコト六太郎地境ニ比スレハ一尺ノ違ヒアルハ最初右地所悉皆能右衛門地所ノ節或ハ通路へ押出シ家作ヲナシタルモノナランカ既ニ甲ノ地原告買受以來土藏建築爲ス可キニ付甲乙境界ノ溝埋立タレトモ其

前甲ノ西北隅ニ南北四尺四五寸東西二尺二三寸ノ狹地アリ右甲ノ狹地ト乙トノ境界ニ溝堀廻シアリテ右溝ハ現在乙丁地ノ境溝ト直ニ通シ居リタレハ全ク南杭ハ通路中央ノ杭木ト思考セリ

第三項 北杭果シテ境界ノ標木ナレハ水底ニナル可キニ溝底深サ一尺計リモ打込タレハ決シテ境界ノ標木ニ非ス既ニ新潟縣廳ニ於テ村用掛石田甚衛ハ右丁乙ノ境界ニ標木打チタル覺ナキ旨申出タリ

第四項 原告ニ於テ乙ノ地ヲ能右衛門ヨリ買受タル節買取ノ證書モ有ル可キ筈ニテ若シ自分方ニテ謂レナク侵入シタルコトナレハ右買取ノ節談判アル可キニ甲ノ地ヲ買添ヘタル後モ其事無ク今般突然申出ルハ解シ難シ

第五項 村内ニ境界ノ標木無キモノハアラスト雖モ論處南杭ハ全

シ原被屋敷ノ境外ニ在リテ且ツ村吏ヨリ丁乙ノ境ニ杭木振立テタル覺ナキ旨申立ツル上ハ證トハ爲シ難シ

第六項 假令粗略ノ造營タルモ家財其外商品納シ置クモノナレハ土藏ト可申右ハ明治元年中ノ建築ニテ明治五年中建家造營ニ付右土藏モ從前ノ礎ニ準シ南方へ六尺引移シ其節ハ近隣ノ者立會且原告ヨリモ手傳トシテ人夫遣シタルコニテ自儘ニ引移シタルモノニ非ス故ニ境界ニ於テハ爭論ナキ筈ナリ況ヤ明治五年地券調ノ節原被共實地取調ノ土地券證願受ケタルコニテ右書上反別ト現今適合シテ錯亂セシコナシ

第七項 境界ノ溝渠ハ村内一般必ス堀廻シアリテ以テ境界ヲ分チ決テ家作ノ適宜ニ堀立ツ可キモノニ非ス故ニ論處ノ溝ハ尤境界ノ確證ト爲ス可シ

第八項 明治五年中原告留守中暫時ノ間ニ溝ヲ堀立テタルコナレハ地券發行ニ付明治五年十月中地券掛へ實地調書ヲ出シタル時等開ニ闕ク可キ道理ナシトス

第九項 原告燒失宅舎ノ礎ハ全ク溝筋ニ沿ヒタルニ相違ナシ

第十項 明治七年十二月論地ノ儀ニ付村役場ニ自分罷出地券下調繪圖面寫取リ新潟縣廳へ出シタルニ依リ縣廳ヨリ右地券繪圖面ノ取調方尋問アリタル時村用掛石田甚衛ニ於テ右下調繪圖面ハ地券調發令ノ時々日切追セシニ付村方ノ見取繪圖面ニテ全ク實地歩詰ノ上取調タル繪圖面ニ非ラサル旨申答ヘタリ然レハ原告ニ於テ之ヲ以テ證ト爲スモ全ク確證ト爲ス可キモノニ非ストス 明治九年三月二日

右ニ付大審院ニ於テ條理ヲ推究シ之ヲ辨明スルコト左ノ如シ

原告庄五郎ニ於テ被告佐平治ヨリ地所侵入ノ証トシテ南ノ杭ヨリ

鉛直ニ照準スヘキ北ノ杭アルニ於テハ一方斜面ニ地所狹マルヘキ
 謂レナシト云ヒ且原告燒失家屋七箇ノ舊礎ハ原被屋敷中間ノ溝際
 ニ存在シテ其第七ノ礎ハ溝ニ掛リタルヲ以テ被告ノ斜ニ侵入シタ
 ルノ証トナシ其他被告侵入ノ証トシテ申立ル件々アリト雖モ上告
 狀第八項ニ於テ自分儀明治五年八月中大坂ヨリ歸郷後屢々被告ヘ
 掛合ヒタルニ被告ノ頼談ニ任セ別段借地証文ヲ取り置カス隣家ノ
 好誼ヲ以テ見許シ置タリト申立ル上ハ縱令最前被告ノ侵入セシモ
 ノト假定スルモ歸郷後之ヲ貸地ト明許シタル上ハ既ニ貸地ノ契約
 ナ結ヒタルモノニ付キ既ニ貸地ノ契約ヲ結ヒシモノヲ再ヒ之ヲ侵
 入ノ地トイフヲ得ス之ニ由テ是ヲ考フルニ該訴ノ原因ハ被告ノ
 侵入ヨリ生シタリト申立ツルモ一旦貸地ヲ約シタル上ハ貸地取戻
 シテ請求スヘキモノナリトス然ルヲ新潟縣廳ニ於テノ訴訟ハ被告

侵入ノ地ヲ取戻サソフヲ請求シ東京上等裁判所ニ於テ控訴ニ至リ
 テハ隣家ノ好誼ヲ以テ侵入ヲ見許シ貸地ノ約ヲ爲シタリトイヒタ
 リ抑初審ヨリ控訴上告ニ至ルマテ其實際ノ事柄ニ於テハ宜ク一意
 貫徹ナル可ク前後相違スルヲ無カルヘキニ左ナクシテ初審ニ於テ
 ハ侵入トイヒ控訴上告ニ於テハ貸地ト云ヒ事實兩岐ニ分レ前後ノ
 陳述大ニ齟齬セシモノトス况ヤ境界ノ證トシテ申立ル件々之ヲ審
 理スルニ到底依ルヘキノ證ナキニ於テテヤ

判決

右ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀ス
 ヘキ理由ナシトス

但シ訴訟入費ハ規則ノ通り原告庄五郎ヨリ被告佐平治ヘ相渡スヘ
 シ

第三十一號

○地券受分割難澁一件上告ノ判文明治八年十月三十日上告
明治九年七月廿八日申渡
新潟縣下越後國魚沼郡
下折立村農

原告

星 六 郎 治

外六十二名

山梨縣下甲斐國山梨郡

和田村平民

原告代言人

吉 田 峯 參

新潟縣下越後國魚沼郡

上折立村農

被告

星 守 平

新潟縣廳ノ審判

原告 下折立村總代富永武八佐藤倉吉瀧澤立作訴訟ノ要領
上折立下折立ノ兩村ハ舊ト一村ニテ單ニ折立村ト稱シタル代官所
ナリシニ寛保三年松平日向守其一半ヲ領スルニ及テ始テ上下兩村
ニ分レタリ其節兩村左ノ第一號約定書ヲ取替ハシ
相定ノ覺

一御竿請田畑ハ勿論持林ノ外山野只今迄ノ通入會ニ伐蒔可致
事

一定上納山蠟實家數割ヲ以テ只今迄ノ通上納致スヘシ候尤蠟
實取候時節日ヲ定メ入會ニ取可申事

一椽尾又温泉賃ノ儀ハ只今迄ノ通三ツ一湯守之レテ取リニツ
ヲ總村高百六十六石八升四合ニ割合配當可致事

一湯小屋ノ儀ハ不及申入湯ノ者ヘノ借小屋共ニ只今迄ノ通守
右衛門支配シ尤右小屋掛人足等モ守右衛門ヨリ出シ可申候
其外ニ番小屋一軒ノ儀ハ村中ヨリ人足ヲ出シ小屋掛ケ可申
候事

一湯小屋入用ノ爲メ材木林萱場ノ儀ハ只今ノ通り松倉澤并立
岩ヨリ薬師堂澤迄七ヶ所立置湯小屋入用ニ遣之其外ニハ一
切伐薪仕間敷事

一椽尾又ヨリ湯元迄九町ノ道筋ノ普請只今迄ノ通村中割合人
足ヲ以テ普請可致事

一村次傳馬人足ノ儀ハ只今迄ノ通總村高ニ割合其外御普請人
足等ノ儀ハ御支配限相勤可申候

一獵川ノ儀ハ只今迄ノ通人々持分限リ致シ御役銀モ只今迄ノ

通人別ニテ上納可仕候會津川御役ノ儀モ右同斷ニ可致事
右ハ今度當村ノ内御知行所ニ罷成引別レ申候ニ付後來ノ爲メ
前誓ノ通相定候條向後違却仕間敷候尤ケ條ノ外タリ共古來ヨ
リ融通致來候儀ハ只今迄ノ通取計出入ケ間敷儀仕間敷候爲後
證此證文爲取替置候上ハ屹度可相守候條依テ如件
寛保三年亥四月廿七日 小出島組

折立村

安 左 衛 門

外五十六名

組 頭

六 郎 右 衛 門

惣 右 衛 門

庄屋

源藏

前書ノ通り定証文爲後日爲取替申處自分立合判元見届相違無
之候以上

小出島組下割元

井口新右衛門

爾來之ヲ遵守シテ年々湯錢三分ノ二ヲ總高割リニ取リ残り一分ヲ
世話料トシテ湯守星守平へ遣シ積年異議ナク繼續シ來リタル處被
告守平明治六年二月地券發行ニ際シ椽尾又ノ温泉所ヲ自分一手ニ
地券受ケスヘシト申立タルヨリ遂ニ兩村ノ紛議ヲ生シタレトモ明
治六年三月左ノ第二號熟談規定書ヲ作り之ヲ取替シテ其爭ヲ止マ
リ

熟談規定書ノ事

一椽尾又温泉敷并湯屋敷ノ儀ハ折立兩村名ニテ之ヲ請ケ地券
証ハ星守平方ニテ預リ置從前ノ通自今永々同人湯守支配可
仕事

一右近傍字松倉澤并立岩ヨリ藥師堂澤迄反別ノ儀寛保三亥年
取極ニ隨ヒ兩村入會名ニテ地券請致シ湯守星守平之ヲ預リ
置キ可申事

右ノ通規定致候上ハ互ニ實意ヲ守リ永々決テ違犯仕間敷候爲
後証規定書爲取替候處仍テ如件

明治六年癸酉三月

第四大區小十五區

魚沼郡上折立村

戸長湯守

星 守 平印

副戸長

富 永 喜 平印

戸長立添人

井 口 宗 七

百姓惣代

富 永 幸 太郎印

右同斷

星 直 作印

同郡下折立村

戸長

星 六 郎 治印

カ

前書熟談見届候付致奥印候以上

副戸長

富 永 小 平 治印

戸長立添

星 源 藏印

百姓惣代

富 永 房 次 郎印

大區長

岡 田 貢印

同副

關 矢 孫 左 衛 門 印

然ルニ守平右規定書ヲ守ラス復タ謂レナキ苦情ヲ申立タルニ付舊

柏崎縣廳ハ明治六年五月下折立ノ取替ハセ得タル規定書ヲ取上ケ
ラレ屢々之ヲ還サレシメテ請ヘトモ右様ノ書類アリテハ後日爭論
ノ基トナルヘシトテ採用セラレヌ剩ヘ左ノ第三號受書ヲ示シテ

奉差上御請書ノ事

公有地
字椽尾又

一温泉坪實反別二拾四步

上折立村
下折立村

永々支配湯守

上折立村

星 守 平

但シ湯錢割分ノ儀ハ従前ノ通取立高ノ内三分一星守平請取
之三分二上折立下折立兩村地價惣高ヘ至當ニ割合セ可申事
公有地字松倉澤ヨリ藥
師堂澤迄七ヶ所ノ内

一山無反別

上折立村
下折立村

此實山大繩反別九町一反八畝步

是ハ従前温泉備地ニ付温泉入用ノ外於兩村ハ伐刈不致定ノ

事

公有地
字藥師堂澤

一實野反別一反九畝步

上折立村
下折立村

是ハ従前温泉備地ニ付温泉入用ノ外於兩村ハ手入不致定ノ

事

公有地
字加ヤ場道上

一實野反別一畝步

上折立村
下折立村

是ハ上折立下折立兩村荷置場ニ致候上ハ此所ヘ普請建物等

決テ致問敷候事

字椽尾又

一番小屋敷實反別一畝步

上折立村
下折立村

此代價七圓

但番小屋現今建物

長八尺
橫六尺

是ハ兩折立村ヨリ一人ツ、日替リ番致來候番小屋ニ付寄宿
等不致儀ハ勿論建物造リ廣ケ并商法等決テ不致定ノ事

字椽尾又

一旅屋敷實反別二反五畝步持主星守平

此代價二百圓

但シ右ノ外從前ノ道敷幅二間通尤家建等ニ差支ノ場所ハ此
限ニ無御座候事

是ハ星守平開墾地ニ付右守平地券請ノ義於兩村聊故障筋無

之筈候事

字湯ノ向上ニ

一實野反別二反步

星守平

此代價四圓

但シ杉木植立開墾地

是ハ星守平開墾地ニ付右守平地券請ク兩村ニ於テ聊故障筋

無之筈ノ事

字加ヤ場道下

一實野反別一反步

星守平

此代價二圓

但シ前同斷開墾地

是ハ前同斷ノ事

同所道上

一實野反別二畝步

同 人

此代價一圓四十錢

但シ桑木植付置候開墾地

是ハ前同斷ノ事

右ハ椽尾又温泉其外共舊證書且從前仕來ニ基キ迺々御手厚ノ御説諭一同奉承伏前書ノ通聊無申分御請仕候處相違無御座候依之一同連印御請奉申上候

明治六年五月十八日

第四大區十五小區

魚沼郡下折立村

百姓總代

星 木 工 三 郎 印

副戸長

戸長星六郎治代印

富 永 小 平 治 印

戸長立添

星 源 藏 印

戸 長

星 六 郎 治 印

上折立村

百姓總代

星 直 作 印

副戸長

富 永 喜 平 印

戸長立添

井口宗七印

戸長

星守平印

調印セヨト嚴達セラレタルニ由リ下折立ノ總代等ハ止ムコトヲ得ス
 シテ是ニ押印シタリ然ルニ其後明治六年八月柏崎縣廢シテ新潟縣
 へ合併セラレ、ニ及テ九月中新潟縣官ヨリ舊柏崎縣ノ地券下調ハ
 速成ヲ欲シテ精細調ヘテ欠キタル分モアルヘキヤニ付尙ホ委曲ニ
 取調ヘテ申立ヨト達セラレタルニ由リ明治七年四月下折立ハ總代
 富永房次郎ヲ以テ兩村合併ノ取調書ヲ縣廳へ差出シタルニ上折立
 村ニ於テハ分割ヲ主張シテ合併ノ儀ニ從ハサルニ付房次郎ヨリ屢
 其景況ヲ村方へ申越シテ可否ヲ問ヒタルモ固ヨリ承諾シ難キコトニ

付其旨ヲ返答シ更ニ村中ノ議決ヲ以テ富永武八外二名ヲ總代トシ
 テ出應セシメタルニ房次郎ハ是ヨリ先キ既ニ代理ノ權限ヲ犯シ自
 己ノ專斷ヲ以テ分割ノ示談ヲ許諾シ明治七年七月八日左ノ不公平
 ナル第四號熟議内濟解訟願書ニ調印シテ之ヲ縣廳ニ呈シタリ

熟議内濟解訟願書ノ事

第十四大區小八區十番組下折立村ヨリ同組内上折立村へ相係今
 般地租御改正ニ付兩村耕地合併不致候テハ山林原野等地券請書
 上方差支候段訴上ケ上折立村ニテハ前々不和合ノ雙村ニ付耕地
 合併等難澁ノ苦情申立最モ山林原野ハ從前ノ通兩村耕地地境ヲ以
 テ地元相定聊書上方差支無之段願上雙方申爭中段々御手厚ノ御
 説諭ヲ蒙リ漸シ理解發明ノ上右兩村入會來ル公有地ノ分ハ雙方
 辨利ヲ量リ公平適宜ノ分割致シ書上度ニ付下方ニ於テ示談仕度

上折立村俱々更ニ奉願候處早速御聞届被下置一同難有奉畏候即御用出掛リ下關村齋藤善作へ立會扱方頼入今般雙方相對熟議ノ上聊モ無申分内濟分割取極候趣意左ノ通り

一上ニ下ニ耕地添山境ハ從前ノ耕地境字サケノ澤川ヲ以テ境界ニ相定メ下モ方下折立村上ノ方上折立村分各村持ニ取極候事

一川向立置備山ノ儀ハ一圓下折立村ニテ持切ノ事

一湯ノ澤内本澤北方コフチャ澤川ヲ以テ境界ニ相定メ水下モヨリ南澤西方イワナ澤迄一圓上折立村分イワナ澤上ヨリ本澤北方コフチャ澤川迄一圓下折立村分各村持ニ取極候事

但温泉ノ儀ハ昨六年中熟議濟口書ノ通可爲無論事

一赤ノ川表并北ノ又兩山ノ義ハ下折立村地元ニ相定メ從前ノ通り兩村入會ニ取極候事

一前書村山中御高受地ハ勿論從來開墾地有之候分ハ兩村開拓人銘々持地ニ相定地券請願上候取極之事

一書面ノ通判然取極候上ハ御改正調方ノ儀雙方實意ニ申合速ニ取掛盡力可致事

但シ別紙境界分ケ粗繪圖面爲取替置候事

前書ノ通雙方熟議内濟取極仕候上ハ後日御願筋ハ勿論聊異議苦情等無御座候間先般差上置候書類御下ケ渡此段御聞濟被成下度奉願上候依之一同連印熟議内濟解訟願書奉差上候以上

第十四大區小八區
原告下折立村惣代

明治七年

七月八日

富 永 房 次 郎 印

星 清 次 郎 印

改正調用掛

星源藏印

同大區同小區

被告上折立村惣代

星直作印

富永利三郎

富永喜平代印

星守平代言人

青島村

井口宗七

改正調用掛

星守平印

地租御改正

御掛

右ニ付村方ニ於テハ房次郎ノ此所爲ニ驚入リ乃チ前書武八ヲ以テ

右十番組

用掛下折立村

星六郎治印

立會扱人

第二十四大區小八區

四番組改正用掛

下關村

齋藤善作印

屢々解約ノ事ヲ應ニ願請スレトモ採用セラレヌ從來ノ入會地遂ニ分割ト成リテ闔村山野ノ營業ヲ失ヒ自然ニ亡村ノ基ニモ立至ルヘキ景況ニテ實ニ難澁ニ堪ヘサルナリ因テ従前ノ成規ニ基キ兩村ノ合併ニテ地券受ケスルヲ得ヘキ様裁判アラソク請フ
明治七年九月二十日

被告 星守平星直作富永喜平答辨ノ要領

明治六年三月ノ熟談規定書ハ兩村ノ名受スヘキ箇所反別等ヲ記載セズ湯錢分配ノ取極ヲモ欠キタル粗漏ノ熟談書ナルニ付既ニ其席ニ於テ爭議ヲ生シ村吏モ之レカ爲メニ調印ヲ肯セサル者アツテ其規定遂ニ破談トナリタリ依テ據ロナク雙方ヨリ其旨ヲ舊柏崎縣廳ヘ申告シ談判熟議ノ末明治六年五月十八日雙方ヨリ第三號受書ヲ同縣廳ヘ差出シテ事濟トナリタリ然レハ明治六年三月ノ規定書ハ

未タ成リタ、サル者タルニ相違ナキチ下折立村ニ於テ兩村合併ノ證據トシテ差出シタルハ不當ナリト謂フヘシ又上折立村ニ於テ明治七年七月第四號ノ熟議内濟書ハ全ク富永房次郎ノ專決ヲ以テ調印シタルモノナリト申述レトモ房次郎ハ村民一同ノ撰舉シタル總代ナリ殊ニ星清次郎星源藏及ヒ星六郎治サヘモ連署調印シタル上ハ今日ニ至リ房次郎一人ノ專決ヨリ出タル不公平ノ熟議書トハ云ヒ難カルヘシ因テ第三號ノ受書及ヒ第四號ノ熟議内濟解訟書ニ照準シテ裁判アラソク請フ
明治八年二月二十五日

判文ノ要領

第一條 原告ニ於テ明治六年五月ノ請書ハ官吏ノ嚴達ニ依テ止ムヲ得ス調印シタル者ニ係リ明治七年七月ノ熟議内濟約定書ハ總代富永房次郎ノ專決ニテ約定セシ者ニ係リテ村民一同ノ承服セサ

ル所ナリト申立ルト雖モ委任狀ヲ渡シタル總代ニ於テ熟議約定シタル上ハ右申分採用シ難シ

第二條 第一號寬保三年ノ定書ハ第四號明治七年七月ノ熟議内濟書ニテ改マリタルニ付山野ノ地券ハ右熟議内濟書ノ通りニ取調フヘシ温泉場ノ儀ハ内濟書中第二條ノ但書ニ依リ原告ニ於テハ明治六年三月ノ熟談規定書ヲ指タル但書ナリト申立テ被告ニ於テハ明治六年五月舊柏崎縣廳へ差出シタル請書ヲ指タル但書ナリト申立ル處右但書ニ熟議濟口書ト記載アルノ上ハ被告ノ申分立難シ原告申立ノ通明治六年三月ノ熟談書ニ的當スル但書ト心得テ地券ノ取調ヲナスヘシ

第三條 前條山野并ニ温泉場共都テ官有地ニ付必用ノ分ハ追テ拜借ヲ願出ヘシ 明治八年四月

東京上等裁判所ノ審判

原告星守平星直作控訴ノ要領

新潟縣ニ於テ明治七年七月ノ熟議内濟書中第二條ノ但書ニ所謂昨六年中熟議濟口書ハ明治六年三月ノ熟談規定書ニ的當スト裁判アリタレントモ是レ全シ事實ノ何如ヲ顧ミサル裁判ト思考ス何ントナレハ六年三月ノ規定書ハ上下兩村ノ地券受ケスヘキ反別ヲ記載セス且ツ村吏ノ闕印モアルヨリ遂ニ破談トナリタルモノニシテ完成ノ證書ニ非ス殊ニ明治七年七月熟議内濟書ヲ縣廳へ差出シタル頃迄ハ廳ノ取上ケ中ニ係ル證書ナレハ自分共ニ於テハ取消トナリタル者ト思考シタリ然ルチ右規定書ニ依テ裁判セラレタル上ハ守平一己ノ費用ヲ以テ開墾シ數百年間進退シ來レル居屋敷外五筆ノ地券受ケスルヲ得ス甚タ難澁ニ及ヘリ因テ六年五月ノ受書ニ

基キ守平ノ開墾地字椽尾又チ初メ六竿ノ地券ハ守平ニ於テ之ヲ受ケ公有地字椽尾又及ヒ温泉坪ノ地券ハ上下兩村并ニ守平三名ニテ受ケ公有地字藥師堂ノ澤ヲ初メ三竿ノ地券ハ上下兩村ニ於テ之ヲ受ル様裁判アラソフヲ請求ス
明治八年六月七日

被告 富永武八星木工三郎富永小平次星源藏星六郎治答辨ノ要領

原告星守平等ニ於テ明治六年三月ノ規定書ハ村吏ノ闕印アルヨリ遂ニ破談トナリ且ツ其書ハ已ニ縣廳へ取上ケラレタルコトナレハ全ク取消シトナリタル者ナルヘシト思考セリト申述レトモ抑右規定書ノ生立シタル原因ハ明治六年三月地券取調ノ際守平等温泉ノ備地字松倉澤并立岩ヨリ藥師堂ノ澤迄チ一手ニ地券受ケスヘキ巧ミニテ一旦舊柏崎縣地券掛へ申告スル事アリタル末區長等ノ扱トナ

リ雙方ノ熟談整ヒテ此規定書ヲ成シタルナリ但シ書中ニ副區長關矢孫右衛門ノ押印チ欠キタルコトハ相違ナケレトモ其頃同人ハ禁錮中ニ在ルヲ以テ押印スルコトヲ得サリシ者ニテ別ニ異シムヘキコトナシ然ルニ其後守平等ヨリ何分ノ義ヲ縣ノ地券掛へ申立テシヤ地券掛ハ捕亡吏ヲ差シテ自分共ノ所持セル寬保三年ノ定書及ヒ明治六年三月ノ規定書等ヲ引上ケシメ強テ六年五月ノ受書ニ調印セヨト嚴達セラレタルニヨリ自分共ハ止ムコトヲ得スシテ命ニ從ヒタリト雖モ前文寬保三年并ニ明治六年三月ノ兩證書ヲ取消サレタルコトハ曾テ之レナシ況ヤ明治八年二月八日ニ至リテ新潟縣廳ヨリ此兩證書ヲ自分共へ還付セラレタルニ於テチキ守平又一己ノ費用ヲ以テ開墾シ數百年間進退シ來ルノ地ト申述レトモ兩村ノ地ハ本ト星六郎治外十二名ノ者未タ上下ニ分郷セサルニ迫テ之ヲ名請セシトニ

テ決シテ守平ノ開墾シタル者ニ非ス畢竟守平等兩村入會ノ温泉湯
チ一手限リニ進退セント取巧ミタルヨリ謂レナキ事ヲ体ヨク申立
ル義ニ付審カニ右等ノ事情ヲ察シテ當然ノ裁判ヲ言渡サレシ
請フ 明治八年七
月二十五日

判文ノ要領

原被雙方ノ申立ヲ審問シ其要領ヲ撮ミテ之ヲ審案スルニ此訴訟ノ
主旨ハ明治七年七月中ノ熟談内濟書第二條ノ但書明文ニ温泉ノ儀
ハ昨六年中熟談濟口ノ通可爲無論ト之レアルハ六年五月中舊柏崎
縣地券掛へ差出シタル請書ヲ指シタルコトナリト六年三月中ノ熟談
議定書ヲ指セル也トノ分晰ニ止マルコトナレハ右二書ノ性質ヲ按シ
之レヲ判決スルニ六年三月中ノ熟談規定書ハ濶畧ニシテ先出タリ
同年五月中ノ請書ハ詳細ニシテ後出タリ濶畧ノ先出ヲ捨テ詳細ノ

後出ニ就クハ固ヨリ普通ノ條理ナリ況ヤ六年三月中ノ熟談書ハ止
ク後來ノ規定ヲ書シ以テ之レヲ交換シタル迄ノ明文ノミナレハ之
ヲ熟談濟口書トハ看做シ難ク殊ニ書面上闕印ノ者モ之アルニ於テ
チヤ旁完就ノ證書トハ謂フヘカラス又同年五月中ノ請書ハ當ニ詳
細ナルノミナラス書面上追々御手厚ノ説諭一同奉承伏前書ノ通り
聊無申分御受書云々ノ明文アリ是レ熟談濟口書ナルノ明證ナリ之
レヲ以テ是ヲ推スニ原告陳述ノ趣其條理アルモノト裁判セリ但被
告陳述ノ内明治六年五月中ノ受書ハ當該官吏ノ嚴達ニ追テレ餘議
ナク調印シタリトノ申立ハ無證ノ申口ニ付採用セス 明治八年
九月三日
大審院ニ於テ

原告 星六郎治外五十二名ノ代言人吉田峯參上告ノ要領

第一條 東京上等裁判所ノ判文ニ明治六年三月ノ熟談規定書ハ濶

略ニシテ先出タリ同年五月受書ハ詳細ニシテ後出タリ濶略ノ先出
 チ捨テ詳細ノ後出ニ就クハ固ヨリ普通ノ條理ナリトアルハ承服シ
 難シ凡ソ争訟ヲ審判スルハ能ク其事實ヲ審ニシ又其證據ノ性質ヲ
 察シテ然ル後其曲直ヲ判決スヘキコナルニ同裁判所ニ於テハ其審
 問チ略シテ事實ト證據トノ如何チ問ハステニ證ノ先出後出チ以テ
 判決セラレタルハ不當ノ裁判ニ似タリ抑自分共ノ證トスル六年三
 月ノ熟談規定書ハ熟談ト明文アレトモ星守平等ノ證トスル六年五
 月ノ受書ハ唯々受書ト題シテ熟談ノ字ナキノミナラス規定書ヲ取
 上ケテレタル間ニ生リ立タル者ナレハ旁々之ヲ指シテ熟談濟口書
 ト稱スヘキ様ナシ又同判文ニ六年三月ノ熟談書ハ止マ後來ノ規定
 チ書シ以テ之ヲ交換シタル迄ノ明文ノミナレハ之ヲ熟談濟口書ト
 ハ看做シ難シトアレトモ後來ノ規定チ書シテ互ニ之ヲ交換シタル

明文アレハ即チ熟談濟口書タル所以ノ明證ナルヘシ又書面上闕印
 ノ者モ之レ有リトアレトモ右ハ證書ノ附箋ニ記スル如ク關矢孫左
 衛門ハ當時囹圄中ニアツテ捺印スルヲ得サル者タルコト明白ナレハ
 以テ此規定書ノ疵瑕ト爲ス可ラス井口惣七ノ名前ヲ貼滅シタルハ
 別ニ次第アリテ岡田貢ノ承知チ以テ之ヲ行ヒタルナリ是ニ由テ之
 チ觀レハ明治七年七月ノ熟談內濟解訟願書第三條但書ノ熟談濟口
 書トハ六年三月ノ熟談書ヲ指シタルコト判然タルニ東京上等裁判所
 ニテハ右等ノ事實ヲ審査セス只村吏ノ闕印アルニ因テ右熟談書ヲ
 完就ノ證書ト謂フヘカラスト裁判セラレタルハ實ニ鹿漏ノ裁判ナ
 ルヘシト思考ス

七四二
 第二條 同判文ニ明治六年五月ノ受書ハ管ニ詳細ナルノミナラス
 御手厚ノ御説諭一同奉承服云々ノ明文アリ是レ熟談濟口書ナルノ

明證ナリトアレトモ是レ甚ダ了解シ難シ何トナレハ此受書ハ守平等從來ノ成規ニ背テ取拵ヘ只タ字ヲ分チ反別チ記シタル迄ニテ詳細ニ事理ヲ記載シタルモノニ非ス外ニ明治六年九月中新潟縣地券掛ヨリ舊柏崎縣ノ取調ハ數村入會チ一村持ニ一村入會チ一人持等ニ調ヘタル分モアルニ因リ更ニ從前仕來ノ正方ヲ以テ地券受ケス可シト申達セラレタルニ付管下一統承知ノ受書ヲ差出シ置タリ然レハ被告ノ證トスル六年五月ノ受書ハ既ニ廢棄スヘキ者トナリタレハナリ

第三條 同判文ニ明治六年五月ノ受書ハ當該官吏ノ嚴達ニ迫リ餘儀ナク調印シタリトハ無證ノ申口ニ付採用セストアレトモ右受書ハ前後ノ文言頗ル齟齬アルヲ以テ官吏ノ嚴達ニ出タルヲ見ルヘシ其證ハ同書末文ニ從來ニ基キ追々御手厚ノ御説諭一同奉承服ト

アリ此從來ノ仕來トハ則寬保年間分郷ノ節取替ハシタル定書及ヒ其他ノ舊書類ニ記載セル趣ニ据テ温泉接近ノ地ハ都テ上下兩村ニ於テ之ヲ進退スルノ仕來ヲ言フナリ然ルニ前文ニハ温泉接近ノ地字松倉澤ヨリ藥師堂ノ澤迄七ヶ所ノ内守平一己ノ進退地アルヘキ旨ヲ記シタルハ前後ノ文言矛盾ニ非スシテ何ソヤ是官吏ノ嚴達ニ迫リ止ムヲ得スシテ調印シタルノ證左ナリ然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ是等ノ事狀ヲモ察セス徒ラニ想像ヲ以テ無證ノ申口ナリト裁判アリタルハ不條理ナルヘシ

大審院ニ於テ條理ヲ推究シ之カ辨明ヲ爲ス左ノ如シ

第一條 明治六年三月ノ規定書ハ熟談ノ二字アルヲ以テ明治七年七月ノ熟議内濟書ニ記シタル熟議濟口書ニ適合スト申立ルト雖モ右熟議内濟書ノ成リタル時節ハ明治六年五月中舊柏崎縣廳ニ於テ

明治六年三月ノ規定書ヲ後日ニ紛議ヲ來スヘキ基ト思慮シ之ヲ雙方ヨリ取揚ケテ廢物トナシタル後ニ係レハ新潟縣廳豈ニ明治七年七月ヲ以テ此既廢ノ規定書ヲ指テ熟議濟口書ト明言スルノ理アラシヤ況ヤ明治六年五月ノ受書ハ舊柏崎縣廳ニ於テ兩村ノ申立ヲ調査シタル未遂ニ雙方協議ノ上之ヲ作リタル者ナレハ熟議ノ二字ヲ題セスト雖モ實ニ判然タル熟議濟口書ナルヲヤ焉ソ熟ノ一字ニ拘泥シテ此判然タル熟議濟口書ヲ排却シ別ニ既廢ノ規定書ヲ引起シ來テ内濟書ノ熟議濟口書ニ牽強附會スルヲ得シヤ

第二條 明治六年五月ノ受書ハ明治六年九月中新潟縣地券掛リヨリ地券下調改正ノ申達アリタル以後ニ至テハ既ニ廢棄スヘキ者トナリタリト申立ルト雖モ右地券掛リノ申達ハ唯々疎漏ノ文ヲ調ヘ直セト云タル迄ニテ舊柏崎縣官ノ取調ヘテ悉皆取消スヘシト達シ

タルニ非ス故ニ明治七年七月ノ熟議内濟書ニ温泉ノ儀ハ昨六年中熟議濟口書ノ通りタルヘシト明言シタルナリ今若シ新潟縣地券掛リノ申達ニ因テ明治六年五月ノ受書ヲ廢棄物ト論セハ原告ノ主張スル六年三月ノ熟談規定書モ亦廢物トナリタルヘシ然ラハ則チ所謂熟議濟口書トハ何ノ書ヲ指シテ之ヲ言ヒタルヤ原告ノ申立自ラ相矛盾スル者トス

第三條 明治六年五月ノ受書ハ前後ノ文言頗ル矛盾シタル者ナルヲ原告ニ於テ之レニ調印シタルハ是即チ官吏ノ嚴達ニ迫ラレタル證左ナリト申立ルト雖モ前後文言ノ相矛盾セル受書ニ調印シタルハ以テ調印者ノ粗漏ヲ證ス可キモ之ヲ以テ官吏強迫ノ證ト爲チ得ス況ヤ從前仕來ニ基クハ官吏說諭ノ由テ基ク所ヲ舉タル語ニテ寬保三年ノ舊約ヲ現今ニ履行セヨト令シタル者ニ非レハ前後ノ文

二五二

言未タ必シモ相矛盾セリト謂フヘカテサルヲヤ

判決

右ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京上等裁判所ノ裁判ヲ法ニ適シタル者ト爲ス依テ上告狀下戻ス者也

第三十二號

○借金催促一件上告ノ判文明治八年九月二十七日上告
明治九年七月三十一日申渡

東京府下第五大區二小

區淺草新旅籠町一番地

平民

原告

廣 瀬 自 慇

東京府下第一大區十四

小區小傳馬町三丁目二

十二番地商

被告

伊藤 藤右衛門

東京府下第三大區七小

區赤坂一ツ木町四十九

番地主族

被告代言人

皆 川 靈 俊

東京府下第一大區十二

小區馬喰町四丁目二十

二番地

被告

宍 倉 市 三 郎

三五二

原告伊藤藤右衛門ヨリ被告廣瀬自慇ニ對シ貸金催促一件ニ付左ノ
第一號證書ヲ以テ

借用申金子證文之事

一金五十圓也

但通用金札也

右者此度無據要用ニ付達而御無心申入書面之金子正ニ受取借用申處實正也但利足之儀者一ヶ月金十圓ニ付二十五錢ノ割合ヲ以返濟之儀本年五月二十一日ヨリ十月十八日迄日數百五十日限一日三十三錢三厘三毛ツ、一日ニ而茂無淹滯御返濟可仕候若遲滯候節ハ一時御取立被下候共其節苦情之一言申問敷候爲後證借用證書仍而如件

下谷御徒町二丁目

五十番地電器商會

社長

廣 瀬 自 慙

明治七年四月廿日

伊藤藤右衛門殿内
庄兵衛殿

右金子ノ儀淺草境内電器展觀所入用之内ニ借用致候ニ付拙者留守ニ而茂右觀世所ヨリ御取立可被下候
東京裁判所へ出訴シタルニ被告ハ左ノ第二號受取證

受取證

一金二圓也

右正ニ受取候也

四月二十四日

伊藤代

六 倉 市 三 郎

第二條

一金四圓也

右正ニ受取候也

五月十二日

伊藤藤右衛門代

宍倉市三郎

第三條

一金三圓也

右正ニ受取候也

五月十八日

伊藤藤右衛門代

宍倉市三郎

及ヒ第三號書翰ヲ以テ

益御安泰之段大慶至極奉賀候扱先年中本家ヨリ御用達申候品代
金之儀ニ付宍倉市三郎ヲ以夫々御談事申上候處御承知被下難有
奉存候就而ハ辰年銅針相納ノ分目切有之候趣ニ而同人へ被仰越

承知仕候右ニ付主人方へ早速ニ申入候處主人事當節病氣ニテ引
籠居候ニ付全快次第精々勘辨申談御趣意ヲ相立可申候儀ニ下拙
盡力仕候間暫時御待被下度其内ニ當方ヨリ否ヤ可申上候如此ニ
御座候早々以上

五月四日

銅屋庄兵衛

廣瀬自慙様尊下

五拾圓之全額ヲ返却スヘキ筋ナシト答辨シタリ然ルニ引合人宍倉
市三郎ニ於テ右受取證ノ九圓ト外ニ三圓合セテ拾二圓ハ左ノ第四
號受取書ノ通りニ

記

一金拾五圓

代呂物代金滯

五月十三日

内金六圓也

受取

五月十九日

内金三圓也

同

七月十四日

内金三圓也

同

小引拾二圓也

引金三圓

不足

右者廣瀬殿勘定左ニ御座候

六月十八日

穴倉様

伊藤

借金内場戻シノ金員ニ非スシテ別ニ品物代金ノ償却ニ充タル者ナリ故ニ自慙ノ差出シタル第二號證金二圓也ノ下ニ素ト品物代金ノ

内ト云文字アリシカトモ今般塗抹シアリ是レ蓋シ被告ノ所爲ナルヘシト申立タリ因テ東京裁判所ハ明治八年七月二十五日左ノ裁判ヲ申渡セリ

第一條 原告伊藤藤右衛門ヨリ明治七年四月二十日第一號約定書ノ如ク金五十圓貸渡ス處期限過去リ返濟不致ニ付速ニ皆濟相成ル様申立被告廣瀬自慙於テハ借用セシニ相違無之ナレ共第二號三號證書ノ如ク右元利金ノ内明治七年四月二十四日ヨリ四度ニ合金十二圓原告代穴倉市三郎へ入金シ且銅線賣買ノ砌減少ノ分百貫目程請取不足有之ヨリテ右差引計算相立サル内ハ濟方相成難キ旨申立テ引合穴倉市三郎於テハ原告伊藤藤右衛門依頼ヲ受ケ貸金并賣掛代金被告廣瀬自慙へ催促ニ及ヒ明治七年四月二十四日始メテ金二圓受取ル節金高ノ下へ品物代金ノ内ト小書

シ夫ヨリ第二條三條ト順チ追ヒ四度ニ合金十二圓受取則チ藤右衛門へ相渡シ第四號ノ通り受取證取置全ク品物代ノ内受取ニ相違無之然ルニ右金高ノ下小書チ自慙ニ於テ勝手ニ塗消シ致シ候ハ難得其意旨申立候事

第二條 前件ノ如クニ付第二號證書中五十圓ニ對シ受取リタル旨明記無之上ハ被告ヨリ十二圓入金セシトノ申分不相立候銅線掛目減少ノ分計算相立度旨申立ルト雖モ被告ヨリ差出ス第三號銅屋庄兵衛書翰ノ儀ハ此度ノ詞訟ニ關係不致儀ニ付採用難相成候依之原告請求スル第一號證書ノ明文ニ基キ元利共速ニ皆濟可致事

明治八年七月二十五日

東京上等裁判所ノ審判

原告 廣瀬自慙控訴ノ要領

東京裁判所ノ裁判書第一條ニ原告伊藤藤右衛門ヨリ明治七年四月二十日第一號約定書ノ如ク金五十圓貸渡ストアレントモ右金ハ藤右衛門内竹内庄兵衛ノ貸シタル者ニテ藤右衛門ヨリ借受タルニ非ス然ルニ其後内十二圓チ藤右衛門へ納レタルハ庄兵衛ヨリノ依頼チ受ケタルチ以テノ故ニテ第三號ノ書翰チ以テ之チ徴スヘシ故ニ殘金モ追々藤右衛門へ皆濟スヘキ處自分儀同人へハ最前買入タル銅線ノ受取不足アリテ未タ其勘定チ得サルニ付右殘金ノ皆濟モ隨テ延引シ遂ニ今般ノ訴訟ニ及ヒタルナリ故ニ本債主庄兵衛チ審問セラレヌシテハ該訴ノ曲直チ知ルヘカテサルヲナルニ今其本人チ閣テ裁判ニ及ハレタルハ不審ナリ

同第二條ニ第二號證書中五十圓ニ對シテ受取リタル旨明記ナキ上

ハ被告ヨリ十二圓ヲ入金セシトノ申分相立タストアレトモ右十二圓ハ借入金ノ内場戻シナルヲ相違ナシ何ントナレハ自分儀嘗テ藤右衛門ヨリ黃銅類ヲ買入レタルヲアルヲ以テ其代金ヲ渡スヘキハ固ヨリナレトモ此金額ハ計算未タ明カナラス借入金五十圓ハ是ニ反シテ四月二十一日ヨリ日賦ヲ以テ返濟スヘキ金圓ニテ計算判然タル者ナレハ既ニ期限ニ及ヘル借金ノ返濟ヲ閣テ計算未タ明カナラサル品物代金ヲ渡スヘキ理ナケレハナリ故ニ四月二十一日ヨリノ日賦ヲ計算シ凡ソ四日分ノ合金二圓ヲ四月二十四日藤右衛門代完倉市三郎へ渡シタルニ市三郎ハ其受取書ニ金高ヲ記シ其下へ十五圓ノ内ト書損セシ故自分ヨリ其由ヲ談シタルニ市三郎其過誤ヲ謝シ直ニ右ノ書損セル文字ヲ塗消シタリ然ルヲ同人今日ニ至テ之ヲ自慙ノ塗消シタル者ナルヘシト申述ルハ誣罔ト謂ハサルヘカラス

ス自慙ノ塗消サ、ルノ證ハ今其塗抹ノ處ヲ太陽ノ光線ニ透見スレハ其文字明カニ見ルヘシ是ノ如キハ豈ニ自慙ノ故意ニ出タル不正ノ塗抹ト爲スヲ得ヘケンヤ況ヤ其後ニ渡シタル兩度ノ入金ハ復タ這樣ノ小書アルヲ見サルニ於テチヤ以テ其品物代金ニ非ルヲ見ルヘシ既ニ品物代金ニ非ルトキハ借入金ノ内場戻シニ非スシテ何ソヤ然ルヲ其明記ナキ故ヲ以テ申分相立タストノ裁判ハ最了解シ難シ

同條ニ第三號銅屋庄兵衛書翰ノ儀ハ此度ノ詞訟ニ關係セストアレトモ庄兵衛ヨリノ借入金ヲ藤右衛門へ返濟スヘキ約定ニ取結ヒタルハ畢竟右書翰ニ渡不足ノ銅線ハ主人方へ申入レ勘辨方ニ盡力スヘシトノ旨ヲ信シ隨テ其依頼ヲモ引受ケタル雙方ノ約諾ナルヲ以テ此度ノ詞訟ニ關係ナシト謂フヘカラス

判文

裁判ヲ請フ可キ證據其事理ヲ辨明スルニ足ラサルニ付受理不及事
明治八年
八月八日

大審院ニ於テ

原告 廣瀬自慤上告ノ要領

竹内庄兵衛ヨリ借用シタル五十圓金ノ内二圓ヲ明治七年四月二十
四日宍倉市三郎へ渡シタルハ借用證書ノ約定ニ照ラシ日附ノ翌日
四月二十一日ヨリ凡ソ四日分ヲ合シテ一度ニ渡シタルモノトス尋
ヒテ五月十二日ニ四圓五月十八日ニ三圓七月十三日ニ三圓通計十
二圓ヲ渡シタルハ皆右借金ノ内場戻シヲ爲シタル者ナリ然ルニ市
三郎儀此十二圓ハ別ニ品物代金十五圓ノ内場拂ヒニ充タル金員ニ
テ借金ヲ還ヘシタル者ニ非スト申述スレト初メ明治七年四月二十

一日市三郎ハ自慤ヨリ伊藤藤右衛門へ渡スヘキ品物代金ヲ借用金
ニ改作シ左ノ第五號證書

借用申金子證文之事

一金拾五圓也

但通用金札也

右者此度無據要用ニ付達而御無心申入書面之金子正ニ請取借用
申處實正也但利足之儀者一ヶ月金拾圓ニ付二十五錢之割合ヲ以
テ本年五月廿日迄日數三十日限リ一日五十錢宛無相違急度返濟
可仕候若一日ニ而茂淹滯候ハ、一時御取立被成候共苦情之一言
申間敷候爲後證借用金證書如件

下谷御徒士町二丁目

明治七年四月二十一日

伊藤藤右衛門殿

自慙ニ示シテ記名押印ヲ請ヒタル節自慙ハ其金額ニ相違アルノミ
ナラズ別ニ差引勘定ノ筋モ之レアルニ付其請ヲ許サ、リシニ市三
郎モ其理アルヲ以テ復タ之ヲ強ルヲ能ハスシテ去レリ然レハ此品
物代金ハ固リ有無未定ノ者ナリ獨リ五十圓ノ借用金ニ至テハ是ト
違ヒ當時既ニ日賦返濟ノ期限内ニ在ル者ナレハ自慙ニ於テ如何ソ
期限ノ既ニ至レル返金ヲ閣テ有無未定ノ品代金ヲ納ル、トアラソ
ヤ是レ十二圓金ノ現ニ還債ニ充タル明證ナリ故ニ市三郎ニ於テハ
受取書金高ノ下ニ誤記セル塗抹文字ヲ扯キ起シ却テ之ヲ自慙ノ塗
抹セル者ナリト証テ爾後三度ノ入金ヲモ悉皆品代金ニ受取リタリ
ト申立レレ七月十三日ノ三圓ニハ左ノ受取證アリテ

預リ

一金三圓也

外ニ加川ヨリノ證書一通受取

右ハ加川ヨリノ金子ノ利分正ニ受取申候以上

七月十三日

宍倉市三郎

自ラ加川ヨリノ金子ノ利分ト明言シタリ抑加川ト云者ハ此金ノ舊
負債主ニシテ自慙ハ只之ヲ口入シタルノミナレト其後加川ヨリ之
ヲ自慙ノ手へ還へシタル節更ニ自慙ノ借用分ト爲シ四月二十日證
書ヲ書改メタル者ナル故七月十三日ノ入金ヲハ加川ノ利金ト記シ
タルナリ既ニ此明記アル上ハ之ヲ奈何ソ品物代金ノ拂入ト云フ
ヲ得ンヤ右ニ付明治七年四月二十四日以降四度ニ渡シタル金ハ借
用金ノ内場戻シナルヲ及ヒ金高ノ下ニ記載セル文字ノ塗抹ハ自慙
ノ所爲ニ非ルヲ明白セシメタル、トヲ得ハ藤右衛門トノ差引勘
定ニ關セス速ニ借用ノ殘金ヲ返濟スヘシト

被告 伊藤藤右衛門代官人皆川靈俊答辨ノ要領

原告廣瀬自慙ニ於テ明治七年四月二十四日伊藤藤右衛門代官倉市
三郎へ渡シタル金二圓ハ借用金五十圓ノ内場戻シナリ又右受取證
金高ノ下ニ品物代ノ内ト記シタル小書ヲ塗消シタルハ自慙ノ所爲
ニ非スト申立ツレモ右ハ自慙ノ所爲ニシテ市三郎ノ塗抹シタルモ
ノニ非ス何ントナレハ證據トテハ無レモ初メ東京裁判所ニ於テ右
受取證ヲ一見シタル節マテハ其小書現ニ存シタルハナリ若シ果シ
テ初ヨリ塗抹シアラハ靈俊焉ソ其文字ヲ見ルヲ得ンヤ是レ市
三郎ノ塗消シタルニ非スシテ其金ハ品物代金ナルヲ明證ト思考
スト

被告 宍倉市三郎答辨ノ要領

自分儀明治七年三月中伊藤藤右衛門ノ依頼ヲ受ケテ其貸金并品物

賣掛代金ヲ負債主廣瀬自慙ニ催促シ貸金ノ分ハ更ニ證書ヲ改メ賣
掛代金ノ分ハ別ニ證書ヲ受取ルヲ得サリシナレモ濟方ノ對談ニ
成リテ明治七年四月二十四日ノ二圓金ヨリ七月十三日ノ三圓ニ至
ルマテ悉皆右品物代金ニ受取タリ然ルチ自慙其後債主藤右衛門ノ
爲メニ右借金ヲ催促セラレタル節ニ及テ遽カニ四月二十四日ノ受
取證ニ記載セル小書ヲ塗抹シ右入金及ヒ其後三度ノ分チ合セテ皆
借金ノ内場戻シヲ爲シタル者ナリト申立レモ藤右衛門ノ第六號勘
定精算書ニ

金十五兩ト銀四十三匁八分二厘

此金七十三錢〇三毛

内

入金六圓也

明治七年五月十三日宍倉市三郎ヨリ受取

入金三圓也 同年同月十九日右同人ヨリ同
入金三圓也 同年七月十四日右同人ヨリ同
小以金十二圓也

尙引金三圓七十三錢〇三毛

ト記載シアル上ハ右十二圓ハ全ク品物代金トシテ受取タルニ相違
ナシト

大審院ニ於テ條理ヲ推究シ之カ辨明ヲナスコト左ノ如シ

原告ニ於テ明治七年四月二十四日ヨリ七月十三日マテ被告宍倉市
三郎ニ渡シタル十二圓金ハ伊藤藤右衛門ヨリ借用シタル金ヲ還へ
シタル者ナリト申立被告ニ於テハ全ク賣掛品代ニ受取タルナリト
申立各其憑據ヲ差出セリ然ルニ當時品物代金ニハ差引計算ノ紛議
ヲ生シテ雙方ノ協議未タ成ラサル者ナルコトハ第三號書翰及ヒ第五

號借用證書ノ案文ニ自慙ノ記名押印ナキニ因テ判然タリ又借用金
五十圓ノ日賦返償ハ日々其期限ニ達シタル者ナルコトハ第一號ノ證
書面ニ因テ明白ナリ然レハ被告ニ於テ十二圓金ヲ品物代金ニ受取
タリト申立ル者ハ唯タ被告一方ニ在テ此ノ如ク思料シタルノミニ
テ其實ハ期限ノ既ニ至レル返金ヲ閣テ未定ノ品代金ヲ納ルヘキ筈
ナシトノ原告ノ申分其理アリトス

被告ノ差出シタル第四第六號ノ兩證書ノ如キハ被告兩人ノ問及ヒ
藤右衛門一己ノ手ニ成リタル者ナレバ以テ原告ニ對スル證據トナ
スヘラカス又受取書ノ塗消ヲ自慙ノ所爲ニ係ルト申立ルモ右ハ全
ク被告代人皆川靈俊ノ推量マテニテ無證ノ申分タルコト判然タル
上ハ原告ノ逐次ニ納レタル十二圓金ハ借用金五十圓ノ内場戻シト
スルヲ當然ナリトナス

判決

二七二

右ノ如クナルヲ以テ本院ニ於テハ東京上等裁判所ノ不受理ノ裁判ヲ取消シ更ニ裁判ヲナスコト左ノ如シ

廣瀬自慙ハ第一號證書ノ借用金元利金額ノ内ヨリ明治七年四月二十四日以降四度ニ差入レタル十二圓金ヲ引去リ其殘リ金ヲ此裁判言渡シノ翌日ヨリ八日マテノ間ニ被告伊藤藤右衛門へ返辨スヘシ被告伊藤藤右衛門ハ第一號證書ノ借用金元利全額ノ内明治七年四月二十四日以降廣瀬自慙ヨリ四度ニ受取タル十二圓ヲ除キ其殘リ高チ此裁判言渡シノ翌日ヨリ八日マテノ内ニ自慙ヨリ受取ルヘシ

第三十三號

○上知拂下處分不當上告ノ判文明治八年十月三十一日上告明治九年八月九日申渡

静岡縣下駿河國安倍郡

原告

大岩村 元平ヶ谷農
大在家分

杉山彦 左衛門

外二十六名

東京府下第三大區一小區麴町

平河町四丁目十二番地平民

原告代言人

芳野 芳次郎

静岡縣中屬

被告

服部 文一

東京上等裁判所ノ審判

原告惣代

杉山三郎兵衛外四名訴訟ノ要領 明治八年七月二十九日

大岩村ノ一部分タル平ヶ谷大在家ノ兩村ハ明治四年中淺間社ノ上

知セル地所ニテ其節民有地タルノ證據ナカリシ故姑ク散田トナリ

三七二

テ自分共ヨリ納税シ居タルニ明治七年ニ至リテ左ノ第一號割付帳
ヲ見出シタルニ付

年貢可納割附之事

伊奈備前守
鈴木外記

檢地

長谷川新四郎
彦坂九兵衛

一高三百四拾三石九斗五升二合

大岩 沖

此反別二十五町十二步

内

田方十九町九反二十九步

畑方三町五反六畝十一步

屋敷一町二反六畝二十二步

云々

殘テ百六十九石七斗三升一合四勺可納分

外

米四石

山手 米

但當巳年ヨリ來ル酉年
迄五ヶ年可納分

右者延寶三年寅五月帳面相改渡候定免取箇書面ノ通候村中百姓
不殘立會無甲乙割合之毎年十二月十日限急度可令皆濟モノ也

天保四巳年二月

新

將 監

平ヶ谷村
大在家村

明治七年七月四日は民有地ノ証トシテ静岡縣廳ニ呈シ其後又山
林賣渡質入等ノ證書四通ヲ得タルニ付是ヲモ縣廳ニ出シテ右地所
ヲ自分共ノ私有トセンコトヲ請求セリ然ルニ縣廳ハ明治七年七月二
十三日ヲ以テ左ノ第二十四號布達ヲ發セラレタレド

村々元社寺領ノ儀辛未上知以來再應取調ノ末猶又特ニ官員派出
巡回實地檢査ノ上檢地帳ヲ始メ諸證書類差出方相達逸々取調濟

官私有地ノ區別確定ノ處其砌リ諸證書類探索等閑置當節ニ至リ
 見出候趣ヲ以テ上地ノ内私有地ニ下戻ノ義願出候村々往々有之
 不都合ニハ候得共處分以前ノ儀ニ付寬容ヲ以取調ノ上明證有之
 分ハ組替聞届候得共一體右様ノ義無之爲メ再三ノ調査ニ及ヒ候
 儀ノ處處分取調ノ際ニ臨徑ニ願出候ハ重々不都合ニテ此上際限
 モ無之處分ノ期ニ差支候ニ付來ル八月一日以後ハ出願候トモ證
 書ノ有無ニ不拘願書一切採用不致候條心得ノ爲メ此旨布達候事
 自分共ハ其以前ニ既ニ右ノ諸證書ヲ差出シ置タルコトナレハ少シモ
 此布達ニ懸念セス唯々屢々前文ノ請求ヲ允許セラレシコト該應ニ
 催促シ居タルニ明治八年六月十七日應ハ山林賣渡質入等ノ證文ヲ
 人民相對ノ者ニテ他ニ證據トスヘキ者ニ非ストテ却下セラレ即日
 自分共ノ請求シタル山地ヲ還祿ノ士族へ割渡サレタルニ付自分共

ハ深ク應ノ此處分ニ驚入リ累リニ前年來ノ請求ニ指令アラシコトテ
 促カセシニ山地ノ事ハ民有タル確証ナキヲ以テ固リ聞届ケサル所
 ナレト田畑屋敷ニ至テハ新將監ノ割附帳アルニ付其筋へ伺出タル
 上何分ノ指令ニ及フ可シト達セラレタリ然レト右採用セラレタル
 割付帳中現ニ山手米四石ト云ヘル明文アレハ山地モ田畑屋敷ト同
 ク私有ノ確證アル者ナルニ付聞届ケラルヘキ筈ナリト思考シ明治
 八年七月三日仍ホ其旨ヲ申出タルニ應ハ再三ノ申出モ採用スヘキ
 廉ヲ見ス且ツ山地ハ既ニ處分濟ニモナリタルコトナレハ今更採用ス
 ヘカラスト令セラレタリ然ルニ其後村方ニテ又左ノ第二號證書ヲ
 見出シタルニ付

相渡申證文之事

一上木代金五十兩也

一山手永七貫五百文

右者兩村御手山此度願ニ付上木御拂跡山地割ヲ以小前持山ニ被仰付候間爲山年貢永七貫五百文宛年々可相納候且此度御拂上木之内杉苗植立候場所三ヶ所并三郎兵衛屋敷彦左衛門屋敷脇天神窪共ニ三ヶ所合六ヶ所ハ御林山ニ相成候間地割相除可申候永々御年貢山ニ相成候儀ニ付別紙繪圖面相渡置候爲後證仍如件

寛政六年寅三月

古川長兵衛印
川口與兵衛印

平ヶ谷村
大在家村

名主
百頭
百姓
中

表書之通ニ候

兵部 印

明治八年七月八日是ヲ縣廳ニ出シテ仍ホ山地ヲ受取ノヲ再請シタルニ即日左ノ指令ヲ得タリ

書面之趣即今ニ至リ申出候共既ニ山地處分濟之儀旁採用難相成候條昨七年二十四號ヲ以テ及布達候趣篤ト熟視可致候事

然レ明治八年六月二十二日地租改正事務局乙第三號ノ布達ニ

各地方山林原野池溝等有稅無稅ニ拘ラス官民有區別ノ儀ハ證據トスヘキ書類有之者ハ勿論區別判然可致候得共從來數村入會又ハ一村持某々數人持等積年ノ慣行存在致シ比隣村ニ於テモ某所ニ限リ進退致來候ニ無相違旨保證致候地所ハ假令簿冊ニ明記無之トモ其慣行ヲ以テ民有之確證ト視認シ是ヲ民有地ニ編入候儀ト可相心得尙疑似ニ涉ル者ハ其事由ヲ詳細可伺出此旨相達候事

明治八年六月二十二日

大 久 保 利 通

トアルニ據レハ自分共ノ請求シタル山地ハ八十餘年間人民ニテ進退シ比隣村々ノ徧チシ識ル所ナレハ假令ヒ簿冊ニ明記ナクモ比隣村民ヲ保證人トシテ民有地ニ編入セラルヘキ筈ナリ況ヤ山手米チ上納シ又其山地ヲ賣渡シ或ハ質入シタル證書類判然トシ之レ有ルナヤ縣廳ノ處分當レリト謂フヘカラス又右明治八年七月八日ノ指令ニ昨七年第二十四號ヲ以テ布達シタル趣ヲ熟視セヨトアレモ此布達ニハ明治七年八月一日以後ニ願出ル者ハ採用セスタアルノミニテ其以前ニ願出タル者モ同ク採用セストノ文意アルヲ見ス自分共ヨリ天保度ノ割付帳ヲ證トシテ田畑屋敷及ヒ山地ヲ下渡サレソトチ願出タルハ明治七年七月四日ニ係レハ毫モ此布達ノ干涉スル

所ニ非ルヘシ殊ニ今般村方ニテ又左ノ第三號山林取極證書ヲ得タルニ

山林取極一札證文之事

一此度村方之儀芝薪等甚以難儀仕居候ニ付當村方名主半左衛門殿御地頭所様へ願上ケ山林ケハイ御預リ被下難有仕台奉存候以後地所等ノ義ニ付村方下作ノ物ニ於テハ手マ、成事不仕右山林ノ義ハ何事ニヨラス名主方へ御伺可仕候取極ニ御座候右面々割地ノ内ニ於テ心得違成事有之候節ハ村方小廻一統立會相改申候故村役人方へハ少モ御世話ヲ掛ケ申問敷候積リ規上

一右面々割地割渡御預ケ置被下申候ニ於テハ枯芝下草タリモ脇々入込仕物有之候人ハ組合内ニテ急度相改村役人へ早々

相届ケ可申事

一若他領ノ物山林入込下草芝タリト交々不相成右用成人有之
節ハ小廻百姓セイ等可仕積候
一山手米御年貢ノ儀年々十一月十五日限リ急度御上納可仕候
隨分米等吟味仕相納可申事
前書定聊以來少モ不勝申間敷爲志置
右之通取極申候上ハ心違ノ物決而不仕候依之連印一札差出シ
仍而如件

文化十二年

長 七印
長 左衛門印
外 十二名

世話人預リ主
名主

半 左衛門印

益々山地ノ私有タルヲチ證明スヘキ者ナルニ付併セテ之ヲ呈シ以
テ縣廳ノ處分ヲ取消シ山地ヲ自分共ヘ下渡サル、ノ裁判アランコ
チ請フ

判文ノ要領

舊社寺領上地ニ付テハ明治七年八月一日以後ハ何様ノ證書アリト
モ私有地下ケ戻願ヲ採用セスト静岡縣廳ノ布達アルヲ承諾シナカ
ラ明治八年六月十七日拂下ケ處分濟ノ後ニ至テ證書ヲ差出ス上ハ
山地下ケ渡ヲ受可キ權利ナキ者トス因テ今般ノ訴ハ之ヲ採用セズ
明治八年
九月三日

原告 杉山彦左衛門外二十六名代理人芳野芳次郎上告ノ要
領

明治四年淺間社ノ上知セル平ヶ谷大在家ノ田畑山林ハ從來民有地
ニ相違ナシト雖モ當時自分共其證據ヲ見出サ、ルニ付據口無ク散
田トナリテ静岡縣廳ノ爲メニ之ヲ小作シ居タリシニ其後第一號ノ
割付帳及ヒ村民共ノ山地質入賣渡諸證文ヲ得タルニ依リ明治七年
七月四日以後兩度ニ之ヲ縣廳ニ差出シ右田畑山地ヲ自分共ノ私有
地ニ命セラレシヲ願ヒシニ縣廳ハ其願書ヲ採上ルト雖モ久シク
指令ヲ下サレサルニ付屢々是ヲ促カシ居タル處明治八年六月十七
日廳ハ村民共ノ山地質入賣渡諸證文ヲ人民相對ノ者ナレハ確證ニ
非ストテ却下セラレ即日右山地字上山ミヤノ山ヒカゲ山ヲ還祿士

族へ拂下ケラレタリ然レモ既ニ第一號ノ割付帳ヲ採用セラレタル
上ハ自分共へ渡サスシテ他へ拂下ケラルへキ理ナキニ付明治八年
七月八日仍ホ第二號ノ證書ヲ出シテ山地ヲ受取ンヲ促セシニ廳
ハ明治七年第二十四號ノ布達ヲ以テ其請求ヲ却ケラレタリ然レモ
右布達ハ明治七年七月二十三日ニテ自分共ニ第一號ノ割付帳ヲ
證トシテ出願シタルハ明治七年七月四日ナレハ出願ノ該布達ニ先
ダツテ寔ニ十餘日トス然ルチ右後出ノ其布達ヲ引來リテ自分共ノ
願ヲ却下セラレタルハ不服ナルニ付乃チ東京上等裁判所へ出訴シ
タルニ同裁判所モ第一號割付帳ニ山手米四石ト明記アル者ヲ遺忘
セラレ拂下處分濟ノ後ニ至テ證書ヲ差出ス上ハ山地下渡ヲ受クヘ
キ權利ナシト裁判アリタルハ法ニ違ヘル裁判ト思考ス况ヤ第二號
第三號ノ證書モアリテ從來民有ノ山地タルニ相違ナキチヤ依テ東

京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ山地ヲ以テ自分共へ下渡サレシ
ヲ請フ

大審院ニ於テ條理ヲ推究シ之カ辨明ヲ爲ス左ノ如シ

明治七年七月四日原告ヨリ静岡縣廳ニ差出シタル第一號割付帳ニ

外

米四石

但當巳年ヨリ來ル酉年迄九ケ年季可納分

ト記載シアレト文甚簡略ニシテ其山手米ハ何レノ山ノ貢租ニシテ其山
ノ廣狹大小モ亦其何如ヲ確知スヘカラス是レ縣廳ニ於テ山地ノ請
求ヲ無證ト認メテ村民ニ下ケ渡サス東京上等裁判所ニ於テモ右山
手米ノ明文アルニ論及セサリシ所以ナリ但シ明治八年七月八日以
後第二第三號ノ二證書ヲ出スニ及テハ上告人ニ於テ此山地ノ舊ト

民有タリシト判然トシテ疑ナシト思考シタルト雖モ右ハ遙カニ縣廳
第二十四號布達ノ日限ヲ過キ山地處分濟ノ後ニ至リテ始テ之ヲ出
シタル者ニ係レハ假令ヒ何様ノ確證ナリト思考スルモ此ヲ以テ布
達日限前ニ出シタルト看做ス可ト得サルニ付其効ナキ者トス

判決

右ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京上等裁判所ノ裁判ヲ法ニ適
シタル者トス依テ上告狀下ケ戻ス者也

第三十四號

○貸地引戻シ上告ノ判文明治八年十月二十五日上告

明治九年八月十日申渡
筑摩縣信濃國筑摩郡
生坂村平民

原告

赤羽長作

筑摩縣廳ノ審判

原告 赤羽長作訴訟ノ要旨

自分所有地字屋敷添麻畑二畝十五步上畑四畝十五步合テ七畝歩ハ
 寛政十一年十二月自分高祖父文右衛門儀被告權八郎ノ祖父八之丞
 ヨリ質流地ニ受取リタル者ニテ既ニ昨年八月地券取調ノ節相當ノ
 代價ヲ定メタル村吏ノ證書モ之ノ有ル處今般地券ノ再調ニ際シ權
 八郎ニ於テ右畑地ハ己カ所有セル者ナリト申立ツレモ果シテ然ラ
 ハ右村吏ノ證書モ地所ノ所有ヲ證スルニ足ラサルニ似タリ但シ往
 古ハ權八郎ノ所有地ナリシト雖モ既ニ自分方へ質流地ニ渡シ其小

被告

赤羽權八郎

同縣同國同郡同村

平民

作トナリタル後ニ至リテ仍ホ其所有ナリト云フハ不當ナリトス因
 テ左ノ質地證文ニ據テ

質地證文ノ事

一自分御竿請本屋敷ノ西字屋敷添東切麻畑二畝十五步此分糶
 二斗二升五合目此代金七兩西切上畑四畝十五步此分糶二斗
 七升目此代金八兩二口ハ七畝步分糶四斗九升五合目ノ處質
 地ニ入置右書面ノ金子借用申處實正也年季ノ儀ハ當午暮ヨ
 リ來未暮迄一年季ニ相定置申候然上ハ御年貢諸夫錢共其元
 ニテ御上納可被成候來未暮ニ元金返濟候ハ、質地手形可被
 相返候萬一未暮ニ元金滯候ハ、此手形ヲ以テ其元へ相渡可
 申候譬御支配替リ其外何様ノ義出來候共右相定ノ通少ニ相
 違無之候爲後日質地證文依テ如件

寛政十年午十二月

地主 八之丞印

口入 喜右衛門印

與頭 庄兵衛印

名主 清左衛門印
相地請人

實地七畝歩ノ内竹林有相添申候

文右衛門殿

右地所ハ自分ノ所有ト定メラレシコトヲ請フト

被告 赤羽權八郎答辨ノ要旨

長作ノ訴出タル七畝歩ノ畑地ハ寛政十年自分祖父八之丞ヨリ長作
ノ高祖父文右衛門へ質地ニ入レ翌十一月質流レニテ彼ノ所有トナ
リタルコトハ長作ノ申立ツル所ニ相違ナシト雖モ其畑地ハ追々川欠
トナリテ現今僅ニ四畝歩ヲ餘マスノミナルニ長作ニ於テ右四畝歩

ノ地所へハ左ノ元文三年ノ田地讓渡證書ヲ

讓渡申田地ノ事

一 惣右衛門御竿請麻畑二畝十九步孫作御竿請麻畑二十八步二
口ニ三畝十步分粃三斗此内四升五合永引有引殘テ有高二斗
五升五合目代金二兩三步體ニ請取右田地讓渡シ申候此田地
ニ付一家相[地格別其外何方ヨリモ構無御座候萬一出入之間
敷儀御座候共加判ノ者共埒明可申候右ノ御年貢二斗五升五
合目御上納被成候御作可被成候御支配替リ其外田地返シ等
如何様ノ儀御座候共此田地ニ於テ以後々々マテ相違無御座
候爲後日田地讓リ證文依而如件

元文三年午ノ極月十九日

當所田地讓主惣右衛門印

相地請人 甚 兵 衛印
 取持證人 長 右 衛門印
 同 久 次 郎印
 同 權 八印
 與頭 傳 七印

次 右 衛門 殿

一松左衛門ト境ニク子有之候先年ヨリク子タケ三尺ニテ御座候其元ニ讓遣候而モ往古ノ通ク子三尺ニ可被成候爲念如件

惣 右 衛門 印

引付ケテ之ヲ別地ナリト稱シ權八郎ノ所有セル屋敷添ノ畑ヲ指シテ寬政十年ノ證文ニ當レル質流地ナリト筑摩縣廳へ申出タルニ付

其節縣廳ヨリ自分并ニ近隣ノ者ヲ呼出シテ取調ヘラレタル末右屋敷添ノ畑ハ權八郎ノ所有ニ相違ナシト決シタルニ付其後今日ニ至ルマテ安堵耕作ナセシ處長作再ヒ此畑地ニ紛議ヲ生シ今般出訴ニ及フト雖モ右畑ハ祖先以來貢租諸稅ヲ納メ來レル自分方ノ竿請地ナルヲ右縣廳ノ取調ニテ既ニ判然タレハ決シテ長作ヨリ預リタル地所ニアラスト

判文ノ要旨

原被ノ訴答ヲ審聽スルニ互ニ抵觸スルヲ以テ中属杉浦晴正史生百瀬元章ヲ派出シ實地ニ就キ其論所ヲ點檢スルニ被告申分實地ニ符合シ原告申立ツル處悉皆證據無之加之昨八月所持地取調ノ節村役場へ差出シタル原告持畑ノ箇所ハ同人自筆ノ段別書モ現存シ今般爭フ處ノ反別ト其畝歩相違有之上ハ申分相立難キニ依リ受取渡濟

ノ質流地ハ原告ノ所持地タルヘシ今般原告ニ於テ自分所有地ナリト申立ツル箇所ハ被告ノ所有タルヘシ 明治八年二月廿四日 東京上等裁判所ノ審判

原告 赤羽長作控訴ノ要旨

自分高祖父文右衛門儀寛政十年被告權八郎ノ祖父八之丞ヨリ取置キタル質地證文ニ記載セル字屋敷添西ノ切麻畑二畝十五步東ノ切上畑四畝十五步ハ方今權八郎居屋敷ノ西ニ當ル畑地一ヶ所及ヒ南ニ當ル畑地一箇所ニシテ翌寛政十一年質流地ニ受取リタルヨリ以來權八郎ヘ小作サセ毎年小作金ヲモ受取來ル所ノ畑地ナルニ明治六年地券取調ノ節權八郎儀右畑地ハ自己ノ所有地ナリト申立タルヨリ紛議ヲ生シ遂ニ筑摩縣廳ヘ訴ヘタルニ權八郎ニ於テ寛政十一年ニ引渡シタル質流地ノ七畝步ハ追々川欠ニ爲リ現今僅ニ四畝步

ヲ餘マセル者ニ當ルト申立タレト右地所ハ元文三年ノ證書ノ通り同村惣右衛門ヨリ受取リタル質流地ニシテ寛政十一年權八郎ヨリ受取リタル地所ニ非ス川欠ノ事ハ水帳貢米帳ニ據リテ地押シテ爲サハ其地處ノ流失セシカ又ハ現存スルカナ知ルニ足ルヘシ然ルチ筑摩縣廳ニ於テハ生地流地ノ取調モナク自分ノ所有ナリト指ス所ノ畑地ヲ以テ權八郎從來ノ所有地ナリトナシ寛政年度權八郎ヨリ取置キタル證書面ノ地所ニ適當セスト裁判セラレタルハ服シ難シ

被告 赤羽權八郎答辨ノ要旨

長作ノ指稱スル現地西ノ切ハ古來ヨリ自分方ノ所有ニシテ寛政年中長作ヘ渡シタル西ノ切トハ別地ナリ其證ハ文化五年四月廿一日小立野村松左衛門外十名ヨリ川欠損地ニ付作場道付替ノ爲メ自分父清右衛門外一名ヘ差入レタル左ノ畑地借用證書

借地申畑地之事

一貴殿方屋敷添ノ畑外ト作場道川欠ニ而通用相成不申候ニ付此
度御無心中各方御年貢地ノ内借地致シ細道ヲ付作場通用致候
處相違無御座候尤起返リ次第道筋操出可申候爲後日借地證文
仍テ如件

文化五辰年四月廿一日

小立野村

借主	松	左衛門印
借主	皆	右衛門印
同	彌	兵衛印
同	熊	之丞印
同	吉	藏印

當所

清左衛門殿
清右衛門殿

ニ判然タリ又長作ノ指稱スル現地東ノ切モ右質流地ニ渡シタル東

百姓代	岡	右衛門印
與頭	吉	郎右衛門印
同	庄	兵衛印
名主	文	右衛門印
明科村名主		
噉人	丸	右衛門印
光村名主		
同	善	之丞印

ノ切ニアラス其證ハ文化十一年四月十九日長作ノ祖父勘右衛門ヨリ
 通行道附替ニ付自分父清右衛門外一名ニ差入レタル左ノ道敷替
 地ノ一札

一札之事

一寛政十午年十二月八之丞殿ヨリ屋敷添ノ畑私方ニ質地ニ請取
 候節境木ノ北ニ各方通用道御座候處東西八間餘之處私方ニ而
 切添畑ニ仕右道代トシテ境ノ南私地所ノ内家ノ北西ヨリ右間
 敷程ノ所無滯通用相成候様替地道敷各方ニ差出シ申處相違無
 御座候爲後日一札仍而如件

小立野村文右衛門改

文化十一戌年四月十九日

勘右 衛門印

當村

清右衛門殿

清左衛門殿

ニ明白ナリ且論地ハ寛政年中長作方ト質地ノ取引ヲ爲シタル頃ハ
 自分先代ノ現ニ居住シタル本屋敷ナレハ長作方ニ質流地ニ渡スヘ
 キ筈ナシ故ニ長作方ニ渡シタル質流地ハ其節居住シタル本屋敷ノ
 西ニ當レル地所ニシテ證文ニ西ノ切東ノ切ト記シタルハ本屋敷北
 西ニ當ル一箇所ノ畑地ヲ其中央ヨリ東西ニ區別シタルノ稱ナリ然
 ルニ長作ニ於テ右地所ハ元文中惣右衛門ヨリ受取リタル質流地
 ニシテ權八郎方ヨリ受取リタル地所ニ非スト論スレモ果シテ其言
 ノ如クナラハ文化年中道替ニ付テノ證書自分方ニ存在スヘキ筈ナ
 シ抑自分方ニ存在シタル文化年中ノ證書ハ長作ニ於テモ確實ノ證
 據ト認メタル者ナル上ハ惣右衛門ヨリ受取リタル質流地ニ非ルト

既ニ明瞭ナリト謂フヘシ況ヤ右論地ハ自分祖先以來貢租諸稅ヲ納ムル筈請地ニシテ長作ヨリ預リタル地所ニ非ラス又長作ヘ小作金ヲ納レタルヲ曾テ之レナキニ於テチヤ

判文ノ要旨

原告ノ所持セル寛政度ノ質地證文及ヒ元文度ノ讓地證文ハ爭論ノ地所ニ適當セズ又質流地ヲ被告方ヘ小作ニ預ケ小作金ヲ受取來ルトノ原告申分ハ其證據コレナシ被告ノ所持セル文化度ニ通ノ證文ハ原告ニ於テモ確實ノ證據ナリト信シ且被告ノ答辨ニ適當シタルニ付筑摩縣廳裁判ノ通心得ヘシ 明治八年八月三十一日

大審院ニ於テ

原告 赤羽長作上告ノ要旨

被告權八郎ヘ小作ニ預置キタル畑地ハ寛政年度權八郎方ヨリ質流

地ニ受取タル以來自分方ニテ貢租ヲ納ムル所有地ナルニ東京上等裁判所ニ於テハ貢納有無ノ取調ナク又其地所ノ果シテ流亡シタルト否ラサルトナ調査セス只タ小作金ヲ受取タル證據ナキヲ以テ右質地證文及ヒ元文度ノ讓地證文ハ爭論ノ地所ニ適當セスト裁判セラレタルハ法ニ適セサル者ト思考ス因テ之ヲ破毀シ自分ノ所有地ト定メテレノンヲチ請フ

明治九年三月三日大審院訟庭ニ於テ原告赤羽長作陳述ノ口供 稅納有無ノ御調ナント申立候得共右ハ自分ニ於テモ何ノ地面ヨリ如何程ノ稅ヲ出シ申候哉唯惣高ヲ以テ計算仕候故此節ノ爭地ヨリ出ス租稅如何程ト申儀ハ存シ不申候

大審院ニ於テ條理ヲ推究シ之カ辨明チナスヲ左ノ如シ

第一條

寛政十一年被告方ヨリ質流ニ受取タル七畝歩ノ畑地ハ被告ヘ小作ニ預ケ置キタリト申立ツルト雖モ既ニ小作證文無シ又タ小作米金ヲ受取タル證據モ無レハ其申分ノ正實ナルヲ證スヘキ者アラス

第二條

右畑地ハ寛政十一年以來原告方ニテ貢租ヲ納ムル所有地ナリト申立ルト雖モ本院審問ノ席ニ於テ自分貢租ハ總高幾許ト云テ以テ上納スルノミニテ論地ノ貢租ハ何程ナルヲ知ラスト申述ヘ又同村ノ副戸長宮川六郎外壹人ヨリ明治七年五月五日縣廳ヘ差出シタル書面

記

第三大區八小區筑摩郡小立野村

當村儀從前御高帳名寄帳等無之唯貢米帳而已ニテ御上納金割合

仕候

慶應卯年迄御割付ノ面

貢米四十三石九斗一升九合

内 十七石五斗七升七合

辰川欠引

殘 貢米二十六石三斗四升二合

慶應卯年迄

長作持高分

貢米二斗三升五合七勺七才

内 九升九合四勺

辰川欠引

殘 一斗三升六合三勺七才

内 七升三合

質地高入ニ遣シ引

殘 六升三合三勺七才

是ヘ村持高割散シ一升ニ付一合三勺ヲ加

壬申年ヨリ

七升一合六勺

内 當戌二月質地ノ内請戻シテ貢米四升五合二勺入ル

當時御上納高

貢米一斗一升六合八勺

右長作辰年御損免ニ相成申候ハ去寛政度八之丞ヨリ買請候畑ノ

内ニ相違無御座其他其節流地ノ畑一切無御座候

慶應卯年迄

權八郎持高分

貢米二斗四升九合八才

内 一升四勺

辰川欠引

殘 二斗三升八合六勺八才

外已ヨリ申マテ質地高入ニ請取候分三斗七升九合二才

合五斗一升八合六勺

是へ村持高割散シ一升ニ付一合三勺ヲ加

壬申年ヨリ

五斗八升六合

内 質地高入ニ請取候分請戻シニ相成三斗三升六合二勺八才

才

酉十二月引

但シ村持高割散シ共

殘 當時御上納高 貢米二斗四升九合七勺二才

右權八郎辰年御損免ニ相成申候ハ字屋敷添字押込ノ兩所ニテ引

候ニ相違無御座候

前顯申上候通リ從前御高帳名寄帳等無之猶又辰年ノ流地小前帳

モ無御座唯貢米帳ニ辰ノ川欠引ト記載有之而已ニ候故一筆限貢

米相分不申候得ハ論所御上納ノ義判然不仕候得共從前權八郎方

ニテ支配仕候ニ相違無御座候又壬申十月先副戸長宮川仙六久保

田彌藤太取調候地引帳ノ義ハ銘々調ニテ長作義モ自身取調屋敷添權右衛門竿畑二畝歩ト書出シ其後地引帳出來ノ節長作申候ニハ右屋敷添ノ儀ハ先年七畝歩ノ證文ニテ買取り候畑ニ候ハ追々起返リ次第開作仕度候間何卒七畝歩ト記載被下度旨申ニ任セ書直シ候ハ先般ノ無念ニテ此段奉恐縮候右長作自筆ニテ二畝歩ト書出シ候者第七百二十八番實地三畝十四歩ノ畑ニ相違無御座候

當時論所ノ畑長作申候ニハ去壬申八月二畝歩ト書出シ其後七畝歩ト書直シ候屋敷添ノ畑ト申候得共角違ニテ竝ヒ惡敷殊ニ權八郎通用道ヲ相隔候畑ヲ一筆ニ可取調謂無之又長作申ニ任セ候ハ同年取調調印仕候權八郎屋敷添ノ畑二筆トモ姿モ無之全ク以長作申掛ノ儀ニ相違無御座候猶乍恐隣村等迄夫々御見聞被下置

候テモ相分可申ト奉存候長作謀計聊以相立申候儀ニテハ村吏モ難相勤殊ニ人氣ニモ差響村治ニモ相成申間敷ト奉存候間御賢察被下置候様奉願候以上

右村副戸長

明治七年五月五日

宮川六郎次印

同斷

久保田嘉平太印

筑摩縣權令永山盛輝殿代理

筑摩縣參事高木惟矩殿

ニモ該村ニハ古來高帳名寄帳小前帳ノ簿冊ナク唯貢米帳ヲ以テ上納金ヲ割合フノミニテ一筆限リノ貢米分ヲサルニ付論所ノ貢納判然セオトアル上ハ原告ニ於テ論地ノ貢租ヲ納メ來レルトハ確證ナ

キ申立トス

第三條

右畑地七畝歩ノ内東ノ切ト稱スル箇所ハ乃チ長作儀東京上等裁判所ニ於テ質地證文ニ記載セル宇屋敷添西ノ切麻畑二畝十五歩東ノ切上畑四畝十五歩ハ方今權八郎屋敷ノ西ニ當ル畑地一箇所及ヒ南ニ當ル畑地一箇所ナリト申立タルトキハ現場被告居屋敷ノ南ニ在リテ質地證書ニ記載セル自分御筭請本屋敷ノ西トアルニ戻リ又文化十一年ノ替地道敷ノ經過スル所ニモ非ス然レハ原告ニ於テ被告居屋敷ノ南ニ在ル畑地ヲ指シテ寛政十年ノ質地ト爲ルハ相違ノ申立ナリトス

第四條

被告居屋敷ノ西ニ當レル論地ハ文化五年ノ借地證書ヲ以テ被告ノ

所有地タルヲ證スヘシ又右證書ノ今仍ホ被告ノ手ニ存スルト及ヒ明治七年五月五日該村ノ副戸長宮川六郎次外一人ヨリ筑摩縣廳ニ差出シタル慶應三年ノ貢米帳ニ記載スル所トニ據レハ其地ノ現ニ川欠トナリテ未タ起返ラサルヲ判然タリ是則東京上等裁判所ニ於テ生地流地ノ調査ニ及ハスシテ筑摩縣廳ノ裁判ヲ允當ナリトシタル所以ナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京上等裁判所ノ裁判ヲ以テ條理ニ適セル者ト爲ス依テ上告狀下戻ス者也

第三十五號

九〇三
○山林處分一件申渡書 明治九年八月十九日上告
明治九年八月二十一日申渡
鳥取縣下伯耆國久米郡

原告 下福田村平民 荒尾本道

鳥取縣參事

被告 伊集院兼善

控訴上告手續第十五條ニ上告ヲ爲サント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二
月内ニ上告狀ヲ大審院ニ捧ク可シ若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ
距離八里ヨリ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ増ス此定期ヲ過レハ
上告ヲ許サストアリ本件明治九年二月二十日大坂上等裁判所ノ裁判
言渡ヨリ大審院ニ上告セシ明治九年八月十九日マテ惣計日數百八十
一日ナリ其内上告期限ノ二月ト距離ニ付猶豫ノ日數十九日トヲ通算
シテ七十九日ヲ控除シ上告ノ定期ヲ經過スル已ニ百零二日ナルヲ以
テ上告狀却下候事

第三十六號

○新敷山貸地引戻一件中渡書 明治九年八月廿二日上告
明治九年八月廿四日申渡
筑摩縣下信濃國安曇郡
會染村澁田見耕地惣代
平民

原告 松倉甚十郎 外一人

筑摩縣下信濃國安曇郡
陸鄉村中村耕地惣代平
民

被告 遠藤善之 外一人

三一三 控訴上告手續第十五條ニ上告ヲ爲サント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二
月内ニ上告狀ヲ大審院ニ捧ク可シ若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ
距離八里ヨリ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ増ス此定期ヲ過レハ
上告ヲ許サストアリ本件明治九年六月二十日東京上等裁判所ノ裁判
言渡ヨリ大審院ニ上告セシ明治九年八月廿二日マテ惣計日數六十三
日ナリ東京上等裁判所ト大審院トハ其在ル所相接スルヲ以テ距離ニ
付猶豫ヲ與フルノ日數ナシ依テ總日數ノ内上告期限ノ二月ヲ控除シ
上告ノ定期ヲ經過スルヲ三日ナルヲ以テ上告狀却下候事

第三十七號

○金談出入始末方一件申渡書 明治九年九月十九日上告
明治九年九月十九日申渡

青森縣下陸奧國三戸郡

濱通村平民

原告

月館 岩太郎

外十六名

堺縣士族

原告代言人

佐藤 終吉

其方ヨリ青森縣下陸奧國三戸郡八戸村長瀬町士族鈴木通大へ對スル
金談出入始末方一件今般上告ニ及フ處右ハ明治九年七月八日宮城上
等裁判所ノ裁判申渡ヲ受ケタル翌九日ヨリ明治九年九月十九日本院
へ上告狀ヲ差出シタル日マテヲ總計スルニ日數七十三日ニ相成リ其
内ニテ上告期限二箇月ノ日數六十日ト宮城上等裁判所ヨリ本院ニ至
ルノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フル日數十一日トヲ引去リ剩ル所
ノ二日ハ即チ上告期限日數ヲ過去リタルモノニ付明治八年第九十三
號布告控訴上告手續第十五條上告ヲ爲サント欲スル者ハ裁判言渡ニ

三一三

三
リ二月内ニ直チニ上告狀ヲ大審院ニ捧クヘシト謂ヘルニ戻レルモノ
トス依テ上告狀差戻候事

第三十八號

○靈山東裏山野入會一件申渡書 明治九年九月十九日上告
明治九年九月二十日申渡

福島縣下岩代國伊達郡

石田村外十八箇村總代

原告

遠藤善助

外二十名

堺縣士族

被告代言人

佐藤終吉

外二名

其方共ヨリ福島縣下磐城國宇田郡玉野村へ對スル靈山東裏山野入會

一件昨十九日午後第八時宿直ノ者へ上告狀差出置處右ハ巳ニ午後第
二時ノ退出後ニ係ルヲ以テ上告狀却下候事
第三十九號

○公有開墾地差違ノ上告ノ判文 明治八年十一月四日上告
明治九年九月廿五日申渡

新潟縣下越後國岩船郡

第廿四大區八小區下關

村平民

原告

渡邊三左

新潟縣下越後國岩船郡

第廿四大區八小區下關

村平民

代言人

渡邊友之助

被告

新潟縣下越後國岩船郡
荒川綠小岩内村始十箇
村

新潟縣下越後國岩船郡
第廿四大區九小區金屋
村平民

總代言人

遠山儀四郎

新潟縣下越後國岩船郡

第廿五大區一小區平林

村平民

同

木村善八

新潟縣下越後國岩船郡

第廿五大區壹小區葛籠
山村平民

同

齋藤源八

新潟縣下越後國岩船郡
第五大區一小區牛屋村
平民

同

石田信藏

新潟縣廳ノ審判

原告 渡邊三左訴訟ノ要領

自分儀明治二年四月村上民政局ヨリ左ノ第一號書下ヲ以テ

先般荒川綠新田外九箇村地元開發取掛リ之レアルニ付今度右場
所見分ヲ遂クル處相應ノ土地柄ニヘ改メテ人撰ノ上其方儀兼テ

開發手馴居由ニ付開墾申付ル條精誠利益ノ道ヲ守リ早々取計フ
ヘキ者也

巳四月

村上民政局印

下關村三左衛門手代 柳藏へ

荒川縁新田等十箇村ノ地先ヲ開發セシテ申付ラレ因テ地代トシ
テ金千二百圓ヲ上納セヨト口達セラレタルニ付明治二年五月之ヲ
中條局ニ納メシニ又左ノ第二號書下ケテ得タリ

一荒川北縁小岩内村ヨリ福田村マテ十箇村地先キ野地空地秣場
並古川敷水堀場都テ古田ノ差支ニ成テサル箇處用水屈丈ケ開發
可致事

一畑方ノ儀ハ反別相改メ相當ノ代金地主方へ相渡シ田成ニ可致
事

但畑方地主自分開キ致度者ニハ自分發キ爲致可申事

一畑田成自分開對談行届候箇所アリ共三箇年過テ等閑置候分ハ
四箇年目ヨリ其方ニテ開發取掛リ可申事

一開發新田小作ノ儀ハ地元村々ハ勿論最寄村々ニテ小作頼出候
者へハ相當入付米ヲ以小作為致手餘リノ分ハ入百姓取立耕作相
成候様可致事

一江浦潰地ノ儀ハ段畝歩相改地面相當ノ代金持主へ相渡右年貢
諸役共其方ニテ相勤可申事

但替地差地秣場等無高場ノ處田地ニ相成ヘキ場處役永上納仕
來ノ通其方ニテ相勤其村々へ迷惑相掛ケ中間敷事

一新田用水江へ相掛リ候漸規橋々ハ末々ニ至ル迄其方ニテ引請
通路不差支様可致事

右村々新開ノ儀先般申付置候處于今不取掛趣今般心得方以箇條書相渡候條早々開發取掛リ可申者也

明治二巳年五月

中條局印

下關村三左衛門手代

柳藏

右ノ通申付置候處地主方ニテ引受度場處ハ新開引請方ハ罷出相談ノ上順水ノ都合能致シ外々差支不相成様可致事

明治二巳年五月

中條局 租稅方印

小岩内村

高野新田

河邊村

興屋村

葛籠山村

平林村

富田村

牛屋村

荒川縁新田

福田村

右村々役人

右ニ付速カニ村々へ對談ヲ遂ケ開墾ニ着手スヘキ處明治三年五月

ニ至リ舊會津領ノ節ヨリ右場所ノ開發ニ取掛リ居タル福岡村塚野藤七郎ヨリ水原役所へ故障ヲ申立タルニヨリ熟談ノ上金千圓ヲ藤七郎へ納レテ左ノ第三號證書ヲ取リ

爲取替一札ノ事

御管内岩船郡荒川縁拾箇村地先空地並畑田成新田開拓方ノ儀去巳年中下關村三左衛門へ御書下ヲ以被仰付ノ處福岡村藤七方ニ迷惑筋有之歎願仕候ニ付實意ノ對談方被仰付熟談ノ上取極左ノ通

一金千兩也

總對談金高

内譯

金二百兩也

此度證據金トシテ三左衛門ヨリ藤七へ相渡シ取引相渡候事

殘金八百兩也

右ハ藤七儀舊會津領ノ砌荒川縁村々御見立新開御入用多分金主
致シ迷惑ノ趣歎願候ニ付懇意ノ續扱人立入三左衛門へ及示談同
人へ御書下ケ通村々新開對談行届歛入相成候節殘金八百兩也藤
七へ相渡シ都合千兩ニテ新開手離候積尤其節同人所持ノ新開一
條書類不殘三左衛門へ相渡後々毛頭申分願筋無之極ノ事云々

明治三年五月

福岡村

藤七代

庄 兵 衛印

外 五 名印

乃チ其地所及ヒ書類ヲ藤七郎ヨリ受取リテ然ル後始テ村々へ談判
シ明治三年十二月ヨリ明治四年十二月迄ノ間ニ悉ク右十箇村及ヒ

鹽谷町ノ熟談爲取替證書ヲ交換スルヲ得タリ今其一ヲ舉ルヲ左
ノ如シ

一荒川縁新開發ノ儀去ル巳年願人柳藏へ中條局ヨリ開發申付ラ
レ右開發地掛村々小岩内村始メ福田村迄十箇村へ右ノ趣布告相
成居リ今般柳藏ヨリ御支配役所へ開發方對談願ヒ出タルニ付右
村々實意ニ對談スへキ旨兼テ申渡サレノ御趣意ニ基キ取極ノ廉
々

一用水取入口ノ儀ハ在來ノ場所ヨリ取入レ申スへキ事右場所欠
崩レノ節ハ願人方ニテ普請スへキ極メノ事

一江筋潰地一反歩ニ付代金五兩ニ讓渡シタル上ハ御年貢諸役願
人方ニテ相勤メ申スへキ事

一往來橋三ヶ所作塲橋三ヶ所右六ヶ所トモ入用向來願人引受ノ

事何ノ儀ニ由ラス用水路ニ掛リタル諸入用村方へ迷惑掛ケ中間
 敷取極メノ事
 一江筋取入口ニ門樋丈夫ニ補理シ洪水ノ害ナキ様雙方ニ相備ヘ
 申スヘキ事
 一本畑ノ内用水路欠落ナル節ハ願入方ニテ普請シ畑主へ迷惑
 掛ケ申ス間敷事
 一用水路へ幅二間半左右へ丸二間ツ、ニ取極メノ事
 一畑田成ノ場所ハ地主自分開キタル上ハ水代米一段歩ニ付米二
 斛ツ、年々願入方へ渡スヘキ事
 前書ノ通り一統納得ノ上取極メタル處相違ナシ以後何ノ儀ニ由
 ラス御趣意ニ本ツキ相互ヒニ開墾差支へサル様致スヘキ後日ノ
 爲メ一統連印取替セ證文仍テ件ノ如シ

明治三年十二月

小岩内村百姓代

藤七郎印

同村庄屋

九郎兵衛印

下關村渡邊三左衛門代

柳藏印

但シ藤七郎へ納ルヘキ殘金八百兩ハ明治五年五月ニ之ヲ納テ
 左ノ第四號受取書ヲ取タリ

差出申一札ノ事

一金八百兩也

右ハ荒川縁新開村々地先空地荒所竝畑田成ノ儀舊會津領ノ砌福

岡御役所御見立新開被仰付村々御受書差上候下々拙者受負開發中諸入用多分迷惑ノ段水原御役所へ出訴御吟味中熟談ノ上右入費ノ廉へ千兩也貴殿ヨリ御出金ノ約定仕内金二百兩ハ其節證據金トシテ受取殘金書面ノ通御渡被成慥ニ受取申候然ル上ハ先濟口面ノ通右新開場ニ付拙者少モ差構無之依テハ村々別紙御見立段別竝繪圖寫共引渡申候且又用水取入口門繩竝不毛地へ堀割候江筋補理ノ形其儘御用ヒ御開發被成御益筋御立可被成候爲後日一札差入申處如件

福岡村

明治五申年五月廿五日

塚野藤七郎印

下關渡邊三左衛門殿代

小林咲次郎殿

諸般ノ準備既ニ此ノ如ク整ヒタル上漸次開墾ニ着手シ養水堰ノ營繕ヲ爲シ居タル處明治七年四月中舊新發田藩ノ士族富樫萬吉等二百名ヨリノ頼談アルニ依リ右開墾地ヲ彼等ニ讓リ渡サントテ約シ乃チ俱ニ縣廳ニ願書ヲ出シタルニ應ヨリ

書面渡邊三左開拓願濟場所讓受ノ儀ハ雙方示談ノ上ニ候得ハ差支之レナシ併段別ノ儀ハ去己巳年ノ取調ニテ廣狹相違ノ廉之レアルヘク候條實地段別開墾成功ノ年季共尙申出ツヘキ儀ト心得申スヘキ事

明治七年四月廿七日

新潟縣令楠本正隆印

ト云ヘル第五號ノ指令ヲ得タルニ付檢地帳ニ照準シテ村々ノ所有地ト自分ノ開墾地トチ分界シ開墾地面ニ屬スル分ヲ受取ノコチ村々へ引合ヒシニ村々ニ於テハ三左ノ堀通シタル養水路傍ノ無稅地

ナモ該村本畑ノ積リニテ地券取調ヘニ組込ミタリト申述ヘ一切三左ノ引合ニ取合ハサルニ付速ニ境界ヲ分チ地所ヲ渡ス様裁判アラソコヲ請フ

被告 村々總代遠山儀四郎外三名答辨ノ要領

村上民政局ヨリ渡邊三左ヘ荒川縁新田外九箇村ノ地先チ開墾セヨト命セラレタルコトハ管テ同局ヨリ自分共ニ達シアリタレモ未タ地所ヲ渡スヘシトノ達シアラス又明治三年ヨリ明治四年マテニ熟談爲取替證書ヲ三左ト交換シタルコトハ相違ナケレモ是亦開田事件ノ對談ノミニテ地所ヲ渡スヘキ約定書ニ非ス然ルチ三左儀今般突然トノ右開墾地チ村方ノ爲メニ取狭メラレタリト訴出ルハ何ノ故ナルコトヲ知ラス且先年塚野藤七郎ノ堀通シタル用水路ハ目今荒廢シテ流通セス三左其地所ヲ引受テヨリ以來モ一步ノ開墾ヲ爲サ、ル

ニ付右ハ縣廳第百二十號ノ布達ニ

各區 戶長

當管下ノ儀從來稻田ニ而已力ヲ用ルヨリ養水難澁ノ地モ強テ水田ト致シ來リ爲是年々其用水堰等修繕ノ勞役費不少加之水旱ノ患モ亦有之人民ノ不幸無此上事ニ候處方今ノ儀ハ田畑勝手作不苦事ニ候得ハ向後用水難澁ノ地或ハ沼川水損ノ場所等ハ能ク其利害得失ヲ審案シ漸次ニ桑田茶園ヲ起シ其他其地味ニ應シ候者ヲ以テ培植シ人民永世ノ洪益ヲ興シ候様戶長ニ於テ厚ク注意可致爲心得此旨相達候事

明治七年四月

新潟縣令楠本正隆

トアルニ依リ三左ニ於テ田畑勝手作ノ條理ヲ了解シ自ラ開田ノ事務ヲ放棄シタルヘシト思料シ依テ這般ノ地券取調ニ村々ノ本田畑

ハ言フニ及ハス地先ノ無稅公有地マテモ遺漏ナク調へ上マテ村有ニ組込ミタル上ハ管タ三左へ渡スヘキ地所ナキノミナラス村々ニ於テハ尙ホ新江堀通シノ爲メニ潰レタル貢稅地ノ償却ヲ熟談爲取替證書ノ約定ニ照ラシテ三左ヨリ受取ソフヲ請フナリ

三左ニ於テハ塚野藤七郎ヨリ右地所ヲ讓受ケタリト申述スルモ初メ村々ニ於テ藤七郎ト約シタルニハ其畑田成場ヲ藤七郎ヨリ他へ讓渡スヘカラス若シ已ムヲ得シテ讓渡スフアラハ村方へ返スヘシト談判シ置キタリ然レハ藤七郎ヨリ村方へ一應ノ相談モナク三左へ讓渡シタリトハ不審ナリ

藤七郎ハ荒川縁新田中ノ開田ヨリ出スヘキ貢稅諸役ノ當トシテ金二百圓ヲ明治元年六月十五日迄ニ出スヘク若シ之ヲ出サ、ル時ハ新開ノ事ヲ止ムヘシト約定シタルニ終ニ出金セス自カラ開墾ノ權

利ヲ放棄シタリ然ルヲ三左ニ於テ其開墾ヲ讓受タルトハ不都合ノ申分ナリト思考ス

三左今歳右ノ開墾地ヲ舊新發田藩ノ士族へ讓リ渡シタリト申述スレトモ村々ニ於テハ未タ始ヨリ此讓渡シノ事アリタルヲ一聞セサルナリ

判文ノ要領

明治二年四月村上民政局ヨリ渡邊三左へ渡シタル書下ケニ地所ヲ渡スヘシトノ文言ナク其後地代金トシテ千二百圓ヲ中條局へ納メタリト申立ルト雖トモ同局ノ受取書ナキニ付納金ノ證立タス又中條局ヨリ渡シタル書下ケノ意ニ基ツキテ明治三年四年ノ間タニ村々ト交換シタル熟談爲取替證書アルモ是只々畑田成ニ關スル熟談書ニテ其地所ヲ授受スヘシトノ約定ニ非ス塚野藤七郎へ金千圓ヲ

渡シテ悉ク其地所書類ヲ讓受ケタリト申立ルト雖トモ右ハ三左ト藤七郎トノ間ニ對談シタル取引迄ニテ何レニモ地所ヲ受取ルヘキノ確證ナキ上ハ三左ヨリ被告村々ヘ對シテ地所ノ引渡シヲ促スヘキ權利ナシトス依テ富樫萬吉始メ二百名ヘ未定ノ地所ヲ賣渡サント約シタルハ不都合ニ付其代金ヲ還ヘシテ破約スヘシ地券ノ儀ハ其村々ニ於テ公有地私有地ノ區別ヲ取調ヘ地租改正規則ニ照準シテ地券受ヲナスヘキ者ナリ
 明治七年十二月二十二日

東京上等裁判所ノ審判

原告 渡邊三左控訴ノ要領

自分儀明治二年中舊村上民政局ヨリ被告村々ノ地先野地空地古川敷水堀場等ヲ開墾スヘシトノ命ヲ受ケ地價トシテ千二百兩ヲ中條局ヘ上納シタル節該局ハ右開墾ノ命ヲ被告村々ヘ通知セラレタル

ニ付自分乃チ村々ヘ對談ヲ遂ケ熟談爲取替規定書ヲ交換シ爾後漸ク開發ニ着手シテ既ニ養水堰ノ營繕ヲモ爲スニ至リタル處明治七年舊新發田藩士族ノ依頼アルニヨリ此業ヲ彼等ニ讓リ渡スヲニ決シ之ヲ縣廳ニ出願シテ其許可ヲ得タリ抑此地所ハ自分ニ於テ管タ開墾ノ命ヲ受タルノミナラス又其地價ヲモ上納シタルヲナレハ私有地ト同様ニ進退シ得ヘキモノト信シ明治七年四月縣廳第百二十號ノ布達アリト雖モ是レ偏ヘニ三左ノ勝手作ニ關スル者ト思考シ乃チ此地ヲ士族ニ引渡サンカ爲ニ經界判定ノ事ヲ村々ヘ掛合ヒシニ意外ノ苦情ヲ言ヒ立ラレテ難澁ニ堪ヘス因テ縣廳ヨリノ説諭ヲ乞ヒ其末縣廳ヘ告訴及タルニ審理ノ上右熟談爲取替規定書中ニ地所ヲ受取タル明文ナク又地價ヲ上納シタリトノ證憑ナキヲ以テ三左ノ進退スヘキ地所ニ非スト裁判セラレタルハ不服ナリ

被告 村方總代木村善八外二名答辨ノ要領

舊村上民政局ヨリ渡邊三左開墾ノ事ヲ村々へ公達セラレタル節村方ニ於テ地先ノ野地空地等ヲ他人ノ爲メニ開發セラレテハ各村本田ノ培養ニ差支へ且ツ其延地ヲ失フヘキ恐レモアレハ當時三左ニ對シテ飽マテ熟談爲取替規定書ノ交換ヲ拒ミ民政局ヨリノ嚴論ヲモ蒙リタレトモ仍ホ其困難ノ情實ヲ陳述シテ服從シ肯ンセサルヨリ久シク拘留等ノ壓制ヲ受ケ止ムコトヲ得ス終ニ畑地ヲ水田ニ開發スヘキ養水堰ノミニ就テ其對談ヲ然諾シ乃チ熟談爲取替規定書ヲ交換シタリ但シ荒川縁新田ト福田村トハ野地空地ヲ開發スルノ對談ヲモ爲シタリト雖モ是亦固ヨリ地所ヲ引渡サンコトヲ約シタルニ非ス又養水堰ノ事ハ舊會津領ノ頃塚野藤七郎ト云フ者被告村々ノ内九箇村ノ地先ヲ開田スヘキ委任ヲ受ケ乃チ此養水堰ヲ作リテ村々

ノ公有并ニ私有ノ畑田若干ヲ潰損シタル者ナリ然レハ三左ニ於テ前顯熟談爲取替規定書ニ照準シ養水堰開通ノ爲メニ生シタル損害ヲ村方へ辨償スヘキ筈ナルニ同人未タ之ヲ辨償セサルカ故ニ村方ニ於テハ幾多ノ損失ヲ被ムレリ抑三左ニ於テ水田開發ノ委任ヲ受ケタリト云フモ唯タ申立ノミニテ數年ノ間少シモ實際ニ着手セス又隨意ニ進退シ得ヘキ地所ト信スル旨ヲ申立レトモ貢租ヲ納メス地券下付ノ布告アルモ該地名受ケノ手續ヲ爲サズ漠然トシ經過スルニ付村々ニ於テハ三左既ニ右開發ヲ斷念シタリト思考シ村民等漸ク其地ヲ開畑シ居タル際明治七年田畑勝手作ノ布達アルニヨリ民政局ノ水田開發書下ケハ自カラ消滅シタル者ト認メ益々開發ヲ行ヒ其既發ノ分ハ段別ヲ詳查シテ地券ノ下付ヲ出願シタルナリ其始末此ノ如シ然レハ三左決シテ該地ヲ有スヘキ權利アラス焉ン之ヲ

他人ニ賣與スルヲ得ンヤ是レ即チ村方ニ於テ經界判定ノ需ニ應
セサル所以ナリ

判文ノ要領

一原告人渡邊三左ニ於テ明治二巳年四月中舊村上民政局ヨリ被告
村々地先北荒川縁ニアル野地空地秣場等開田委任ヲ受ケ次テ舊中
條民政局へ地價トシテ金千二百兩上納シタル末同局ヨリ開墾心得
書ト稱スル書下ケテ下付セラレタル旨申立ルト雖モ納金シタル證
左ナク且ツ明治五申年二月第五十號布告地所賣買許可以前ニ於テ
地價ノ名義ハ之アル可ラサル筈殊ニ地所下渡ス等ノ明文モナシ旁
右開墾場所ヲ拂下ケタルモノト認定スルトノ申分ハ難相立事
一原告ニ於テハ其地形ト地味トニ應シ田畑隨意ニ開發スルノ權任
ヲ帶有スルノ旨申立ルト雖モ舊中條民政局ヨリ書下ケニ荒川北縁

小岩内村ヨリ福田村迄十箇村地先野地空地秣場并古川鋪水堀場都
テ古田ノ差支ニ不成箇所用水届丈ケ開墾云々トアリ又畑方ノ儀ハ
反別相改メ相當ノ代金ヲ地主方へ相渡シ田成ニ可致事ト之ノアル
等先後參照スルニ固ヨリ原告ノ委任ヲ受タルハ偏ニ水田開發ニ限
ルノミ若シ原告ノ申立ル如ク果シテ田畑隨意ニ開發シ得ルモノト
セハ何ソソ既開ノ畑地チ更ニ水田トナスノ理アラシヤ是ニ於テ原
告ハ田畑勝手ニ開發スヘキ權任ヲ帶有セサルモノト定ムヘキ事
一夫レ已ニ原告ノ權任ハ水田開發ノミニ限ルト定ムル以上ハ明治
七年四月新潟縣廳第百十七號ノ田畑勝手作云々布達ノ爲メニ先キ
ノ舊中條民政局ヨリ被告各村ニ特達スル開墾委任云々ノ公告ハ自
ラ消滅セサルモノト可心得事

但シ養水堰營繕ノ事ハ原被各申争ト雖モ畢竟本訴ノ要旨ニ係ラ

サルヲ以テ採用不致事

一前項ニ條舉ナル如ク原告ニ於テハ開墾稼キ方ノ委任ヲ受ケタル迄ニテ其地所ヲ買下ケタルモノト認定スルヲ得ス且ツ其委任ハ偏ニ水田ヲ開發スルニ止ル處縣廳布達ニ因テ其委任ノ權既ニ消滅セル上ハ該地所ヲ私有地ト同一ニ措置スヘキ權理ナキモノナリ隨テ之ヲ他人ニ讓渡スカ爲メ被告村方ニ對シ地所引渡シノ請求ハ相立難キ事

一本訴訟ハ到底新潟縣廳ノ裁判ニ不都合ナキヲ以テ同廳ノ裁判ノ通相心得可申事 明治八年八月三十日

大審院ニ於テ

原告 渡邊三左代官人渡邊友之助上告ノ要領

第一條 東京上等裁判所ノ裁判書ニ明治七年四月新潟縣第百十七

號布達云々トアレヒ右布達ハ村々鎮守社ノ事ニ就テ達セラレタル者ニテ毫モ田畑ノ事ニ關セス然ルヲ此布達ヲ引テ該訴ノ裁判ヲ爲サレタルハ法ニ違ヘル者ト思考ス

第二條 田畑勝手作ノ布達ハ明治七年四月第百二十號ノ布達はナリ此布達ニハ田畑勝手作苦シカラストアリテ水田ヲ廢止セラレ、トノ文言ナシ然レハ三左ノ委任セラレタル開墾地ハ三左ニ於テ田畑勝手ニ開墾スルヲ得ヘキ權利ヲ生シタルヲ保證スヘキモ未タ是カ爲メニ開墾ノ權利ヲ失フヘキ條理アルヲ發見セス况ヤ三左ハ開墾ノ命ヲ得タルカ爲メニ金千二百圓ヲ民政局ニ千圓ヲ塚野藤七郎ニ納レ又某額ノ金ヲ養水堰ノ營繕ニ費了シタルヲヤ然ルヲ同裁判所ニ於テ開墾委任ノ權消滅シタリト申渡サレタルハ承服シ難シ

第三條 第二號書下ケ中畑田成ノ事ニ關スル分ハ村々ト交換シタ

ル熟談爲取替規定書アリト雖モ其後田畑勝手作ノ布達アリタルハ
 三左ニ於テ今更強テ畑田成ノ約ヲ履行スルノ意ナシ唯々村々ノ地
 先ニシテ租稅ヲ出サ、ル荒蕪ノ箇所ニ至テハ當初ノ命ヲ遵奉シテ
 之ヲ開墾セシメテ要スルニ付右書下ケニ照準シテ至當ノ裁判ヲ與
 ヘラレシメテ請フ
 明治八年十
 一月四日
 大審院ニ於テ條理ヲ推究シ之カ辨明ヲ爲スヲ左ノ如シ

第一條

新潟縣第百十七號ノ布達ハ村々鎮守社ノ事ヲ言ヒタルノミニテ田
 畑ノ事ニ關シタル者ニ非ルヲ東京上等裁判所ニ於テ此布達ヲ以テ
 該訴ノ裁判ヲ爲サシタルハ法ニ違ヘル裁判ナリト申立ルト雖モ右
 ハ被告村々總代人ヨリ同裁判所へ差出シタル答辨書中ニ田畑勝手
 作ノ布達ヲ第百十七號ト誤稱セルニ原告代理人渡邊友之助ニ於テ

モ其誤リタルヲ檢舉セス共ニ第百十七號ヲ以テ此布達ヲ稱シタ
 ルヨリ起リタル一時ノ誤寫ナルノミニシテ其所謂ル第百十七號ハ
 明治七年四月第百二十號田畑勝手作ノ布達ヲ指シタルヲ明白ナレ
 ハ毫モ裁判ノ本旨ニ反レル者ニ非ス

第二條

東京上等裁判所裁判書第二項ニ既開ノ畑地ヲ更ニ水田トナスノ理
 アラシヤト云フカ如キハ明治二年巳五月中條局ヨリ書キ下ケノ第
 二項第三項ニ畑田成トノ明文アルニ戻リ應サニ有ルヘキノ條件ヲ
 以テ應サニ無カルヘシト爲スノ裁判ニ付キ不法ノ裁判ナレトモ此不
 法ノ一部ヲ以テ東京上等裁判所ノ全部ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ト
 爲スヲ得ス

第三條

明治七年四月第二十號ノ布達ハ田畑勝手作苦シカラストアリテ水田ヲ廢止セラレトノ明文ナキニヨリ開墾ノ權利ヲ失フヘキ條理アルヲ發見セスト申立ルト雖モ當初中條局ヨリ三左ニ命シタル開墾地ハ地先各村ト協議中ニシテ未タ反別畝歩ノ確定セサルモノニ付其開墾ノ權利ヲ得ヘキ地所ノ區畫ハ未タ明瞭ナラサルニ依テ明治七年四月中三左ノ願書ニ對シ新潟縣令ヨリ三左開拓願濟場所讓受ノ儀雙方示談ノ上ニ候得ハ差支之ナシ併シ反別ノ儀ハ去ル己巳年ノ取調ニテ廣狹相違ノ廉之レ有ル可キヲ以テ實地反別開墾成功ノ年季共尙申出ツ可シト指令セリ然ルニ明治七年九月四日三左ヨリ新潟縣令ヘ對シ書面ヲ以テ右ノ開墾地各村ト示談行届キ難キ旨ヲ申出ル上ハ開墾地ノ區畫ハ終ニ未定ナル者ニ歸スルヲ以テ三左ニ於テハ確定シタル開墾ス可キ地所ノ權利ヲ有セサル者トス故

ニ東京上等裁判所ニ於テ被告村方ニ對シ地所引渡シノ請求ハ立テ難シト裁判シタルハ法ニ違ハサルモノトス

第四條

中條局書下ケ第二號畑田成ノコニ關スル分ハ三左ニ於テ今更強テ畑田成ノ約ヲ履行スルノ意ナシ村々ノ地先ニシテ租稅ヲ出サ、ル荒蕪ノ箇所ニ至テハ當初ノ命ヲ遵奉シテ之ヲ開墾セントノ申立ハ初告裁判所并ニ東京上等裁判所ニ於テ申立サル事柄ニ付明治七年四月廿七日新潟縣令ヨリノ指令ニ據リ其反別ヲ調ヘ縣廳ニ願出ルカ又ハ其事柄ニ付爭論ヲ生シタル時ハ新潟裁判所ニ初告スルハ別段ナリト雖モ大審院ニ上告シテ東京上等裁判所ノ裁判ノ破毀ヲ求ムルノ理由ト爲スヲ得ス

判決

三四四 右ノ筋合ナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京上等裁判所ノ裁判ノ本旨ヲ
破毀スヘキノ理由ナキニ因リ上告狀下ケ戻ス者ナリ

第四十號

○家屋引渡貸金催促一件申渡書 明治九年九月廿五日上告
明治九年九月廿八日申渡

東京第六大區四小區本

所千年町三番地平民

原告

田島 吉右衛門

田島吉右衛門妻

原告代人

田 島 「ハ マ」

其方ヨリ東京府下第一大區十一小區神田小柳町三十五番地平民佐野
「テツ」對スル家屋引渡貸金催促一件明治九年九月二十五日午後第六
時宿直ノ者へ上告狀差出置候處右ハ當日午後第二時ノ退出後ニ係リ

既ニ上告期限ヲ過クルヲ以テ上告狀却下候事

第四十一號

○線綿賣買違約償金上告ノ判文明 明治八年八月七日上告
明治九年十月十六日申渡

長野縣下信濃國筑摩郡

南深志町商

原告

山崎 莊十郎

長野縣下信濃國筑摩郡

南深志町商

原告

寺村 治郎衛

長野縣下信濃國筑摩郡

南深志町商

原告惣代

太田 三郎平

新潟縣下越後國頸城郡
高田春日町商
被告 渡邊 豊次郎

新潟縣下越後國頸城郡
高田吳服町商
被告 佐藤 初五郎

新潟縣下越後國頸城郡
荒屋村平民

被告代理人 小倉 智賢

東京上等裁判所ノ審判

ノ渡邊豊次郎佐藤初五郎ヨリ山崎莊十郎寺村次郎衛太田三郎
平ニ對シ筑摩縣廳へ初告ノ要領 明治六年十
二月廿二日

自分共明治六年十月中筑摩縣下信州松本ノ商淺野嘉平ニ托シ同所
張出賣買所ノ仲買上條和助上條喜平宮下與七ノ手ヲ經テ右賣買所
ヨリ線綿百五十駄ヲ買取ルヲ約シ約定金七百五十圓ヲ納レ左ノ
證書三十枚及ヒ添書一通ヲ賣買所ト喜平トヨリ受取タリ

證書

智四百五十三番
十月廿九日限

一 中市上銘線綿本馬五駄

但本馬十駄ニ付
五百五十兩替

約定金廿五兩也代金

右買入荷物請渡正ニ承リ置候處如件

明治六年
酉十月十一日
買主

世 話 方印

中澤屋喜平殿

裏書 金預リ山崎莊十郎仕切判押印ニケ所アリ
一期日品代金不殘世話方へ受取可申品物渡方ノ義ハ
但此後十日ノ間日割ヲ以テ帳順ニ相渡シ申候事

一期日品代金不致候ハ、預リ置候約定金ニテ無斷償可申然ル上ハ後日此
共名前直段高下ニ預リ置候約定金ニテ無斷償可申然ル上ハ後日此
期日前直段高下ニ預リ置候約定金ニテ無斷償可申然ル上ハ後日此
金不致候ハ、預リ置候約定金ニテ無斷償可申然ル上ハ後日此
印紙成事ニ

世話方

添書

記

印紙判

一 中市繰綿本馬百五十駄

別紙印紙之通

右ハ張出シ賣買所へ仲買相頼買次差上申候當月二十九日約定書

ノ通金子御持參無之候へハ違約ニ相成候且又荷物不相渡節ハ約
定金相戻シ候上違約金可差出候賣買所極候也

明治六酉十月

信州松本本町

淺野嘉平 仕切判

越後高田春日町

渡邊豊次郎殿

佐藤初五郎殿

而シテ新潟縣ニ歸リ右繰綿ノ賣捌先ヲ取極ムル内嘉平ハ自分共ノ
爲メニ賣買所世話方寺村治郎衛山崎莊十郎太田三郎平へ掛合ヒ期
限前ニ代價ヲ納レ置ンコト言ヒ入レタルニ承引セラレヌ其賣買取
引ノ景况往々疑フヘキ所アルヲ以テ嘉平ハ之ヲ筑摩縣廳へ願出タ
ルニ縣廳於テハ明治六年十月二十日ヲ以テ賣買所ノ營業ヲ差止メ

ラレタリ然レトモ嘉平ハ右差止以前ニ結約シタル分ハ其約ヲ果タ
 スニ妨ケナカルヘシト信シ乃チ期日ニ及テ嘉平ヨリ和助與七チシ
 テ代金ノ全額ヲ賣買所へ出サシメタルニ世話方ハ當時縣廳ノ取調
 中ニ付取引スルコトヲ得スト返答セリ依テ嘉平ハ之ヲ縣廳へ伺ヒタ
 ルニ營業差止以前ニ係ル約定ハ取引シテ苦シカラスト達セラレ又
 世話方ニ於テモ明治六年十一月八日マテニハ綿荷ヲ引渡スヘシト
 嘉平へ返答セリ其後自分共ヨリ屢々世話方へ談判ニ及フト雖モ會
 テ取引ノ事ヲ果サ、ルニ付自分共ハ新潟縣ニテ取極メ置タル賣先
 ヨリ嚴シク催促ヲ受ケ據ナク違約金ヲ出シテ之ヲ破談シタリ其金
 員都合六百五十圓才覺金利息二百六圓二十五錢并賣買所引合中ノ
 雜費二十五圓餘合金八百八十一圓餘買次人并ニ世話方ヨリ自分共
 へ償却スル様裁判アラノコトヲ請フト

世話方寺村治郎衛山崎莊十郎太田三郎平答辨ノ要領

張出賣買所ハ本縣廳ノ免許ヲ經テ設立シ自分共之レカ世話方トナ
 リ二十餘名ノ仲買ヨリ連印ノ規則書ヲ取り正品之レナキ賣買ハ致
 サ、ル旨相定メ賣買ノ世話致シ來リタルニ明治六年十月中正荷有
 無ノ事ニ付縣廳ノ調ヲ受ケ右調中明治六年十月二十日縣廳ヨリ賣
 買差止相成夫迄諸方ヨリ受取タル約定金ハ追テ指令スルマテ姑ク
 預リ置クヘシト命セラレタリ其後買方ノ者共期限ニ至リ殘金ヲ持
 參シ約定ノ荷物ヲ受取ント請フ者アリト雖モ縣廳ノ調中ニテ取引
 シ難キ旨ヲ以テ斷ハリタリ然レトモ仲買規則モ有リテ本全ク正荷
 物ノ賣買タレハ本訴ノ如キモ賣主ヨリ荷物ヲ引渡シ然ルヘシト思
 量スレトモ右調中ニテ授受追々遅延スルニ因リ此上ハ賣買雙方共以
 前ノ實意ニ立返リ下方示談ニ任セラレノコトヲ希望スト

右ノ如ク原告被告ノ争訟ヨリシテ東京上等裁判所ニ出訴スルニ至ルマテノ履歴

筑摩縣廳ハ右訴答二書ヲ受取り一應審問ノ末明治六年十二月廿八日ニ此訴訟ノ證據トスル淺野嘉平ノ添書ハ日附ナキヲ以テ明治六年第二百十二號ノ布告ニ據レハ裁判上ノ證據トシ難ク又世話方ヨリ中澤屋喜平ニ名宛シタル證書中ニ名前主ノ外一切取合不申トノ明文モアル上ハ豐次郎初五郎ヨリ世話方ヲ被告トスヘキ權利無キニ付裁判ニ及ヒ難シト口達シ乃チ其訴狀ヲ却下セリ是ニ於テ豐次郎初五郎ハ嘉平ヲシテ其讓證書ニ日付ヲ記入セシメ明治七年三月三日嘉平和助喜平與七ニ對シテ再ヒ筑摩縣廳ヘ出訴シタルニ同廳ニ於テハ右出訴ニ付司法省ヘ伺出ツヘキ次第アルヲ以テ其指令ヲ得ル迄ハ裁判ニ及ヒ難シト説諭シ其後久シク呼出ナキニ付豐次郎

初五郎ハ明治七年五月廿二日司法裁判所ヘ出訴シクレヒ筑摩縣廳ノ添翰ナキ故採用セラレス因テ二人ハ同縣廳ヘ復リテ添翰ノ願ヒタルニ未判ノ事件ナルヲ以テ其願ヲ允ルサレサルニ付已ムコトヲ得ス明治七年六月廿五日再ヒ司法裁判所ヘ出訴セリ依テ同裁判所ハ右出訴ノ原由ヲ筑摩縣廳ニ問合セタルニ該件ハ同廳審理中ニ越訴シタル者ナルコトヲ回答スルニ付司法裁判所ハ再ヒ其訴狀ヲ差戻シタリ因テ豐次郎初五郎ハ重テ左ノ讓證書ヲ以テ明治七年十月中世話方ヘ對シ筑摩縣廳ヘ追訴シタリ其證トスル所左ノ如シ

記

中市線綿

本馬百五十駄

別紙印紙通三拾枚

右ハ御頼ニ付高田渡邊豐次郎殿佐藤初五郎殿行張出シ賣買所ヨ

リ拙者共名目ヲ以テ買入約定金請取御讓リ渡申候受渡ハ規則ノ通ニ御座候

明治六年十月十三日

米 屋與七仕切判

中澤屋和助仕切判

中澤屋喜平

淺野屋嘉平殿

右ノ通仲買衆三人相頼買次御讓リ渡シ申上候追テ別紙添書御渡可申候

明治六年十月十三日

淺野屋嘉平仕切判

渡邊豊次郎殿

佐藤初五郎殿

縣廳ニ於テハ世話方ノ證書ニ違約金ノ事ヲ記載セサルヲ以テ此追

訴ハ明治四年九月諸品賣買取引心得方ノ布告ニ悖ル者ナリト口達シテ採用セス其後豊次郎初五郎ハ本訴ノ裁判モ亦舊ニ依テ遅延ニ及フトテ明治七年十一月十五日ヲ以テ三タヒ司法裁判所へ出訴セリ是ニ於テ司法裁判所ハ筑摩縣廳ニ掛合ヒ往復數回ノ末明治八年一月中遂ニ決テ司法卿ニ取リテ司法裁判所ニ於テ之カ審理ニ取掛リタリ然ルニ明治八年五月司法裁判所ヲ廢セラレタルニ付東京上等裁判所代ツテ之ヲ審判スルヲ左ノ如シ

原告 渡邊豊次郎佐藤初五郎告訴ノ要領

張出賣買所ノ商業ハ明治六年十月二十日ヲ以テ筑摩縣廳ノ爲メニ差止メラレタリト雖モ其節淺野嘉平ヨリ同廳へ伺ヒタルニ右差止以前ニ約定シタル賣買ハ取引差支ナシト口達セラレタルニ付嘉平ハ直チニ其旨ヲ自分共へ報知セリ今若シ世話方ノ言フ所ノ如ク差

止以前ノ分ヲモ取引スヘカラストノ事ナラハ世話方ハ速ニ其旨ヲ
 自分共ニ報知セサル可ラス畢竟此報知ノ遅延シタルヨリ自分共ハ
 賣先へ違約金ヲ出スノ損害ヲ被ムルニ至リタルナリ
 賣買所ハ隔日ニ相場ヲ立テ直段ノ高下ニ隨テ損益ヲ決算シ或ハ仕
 切返シヲ爲シテ相場ノ賣買ヲナシタルニ付空商ノ罪ヲ科セラレタ
 レトモ最初自分共買附ノ約ヲ爲ントスルニ先タツテ其規則書ノ疑
 ハシキ廉々ヲ質問シタルニ其廉々ハ全ク相場賣買ノ規則ニシテ正
 荷ノ賣買ニ關ラスト答フルニ付乃チ正荷賣買ノ約定證書ヲ世話方
 ヨリ取置タルナリ且ツ世話方ヨリ筑摩縣廳へ出シタル答辨書中ニ
 モ全ク正荷物ノ賣買ナレハ賣主ヨリ荷物ヲ引渡シ然ルヘシト思量
 スト申立タル上ハ正荷賣買ヲ約シタルコト判然タリ
 自分共右賣買ヲ約シタル後相場下落ノ節ニ約ヲ違ヘテ差添金ヲ納

シサリシト世話方於テ申立レトモ買附ノ後ハ綿價益騰貴シ期日ノ
 頃ニ至テハ十駄ニ付金四十圓ノ差ヲ生スルニ至レリ此時ニハ東京
 大坂ノ相場モ騰貴シ殊ニ右買附綿ノ出所タル尾州ニ於テステ同様
 ニ高價ニナリタリ況ヤ松本ニ於テチヤ綿價ノ決シテ下落セサリシ
 コト明白ナリ

世話方ハ約定金七百五十圓ヲ其儘差返ス可シト嘉平へ返答シタル
 中自分共ハ既ニ右買附綿ヲ新潟縣下越後國今町港清水屋作造及ヒ
 名立屋惣平へ轉賣スルコトヲ約定シ右手違ニ付損害金六百五十圓ヲ
 作造惣平ニ償却シタレハ今更テ約定金ノミヲ受取テ止ムコト能ハス
 必ス線綿ヲ受取ル歟若クハ右損害金員及ヒ約定金合セテ千四百圓
 ヲ受取ラサルヘカラサルニ付其裁判ヲ得ンコトヲ請フ

被告 仲買上條和助上條喜平宮下與七淺野嘉平答辨ノ要領

自分共ハ張出賣買所ノ線綿證書ヲ其限日前ニ原告へ譲リ渡シタルノミニテ毫モ違約ノ廉ナシ此違約ハ全ク世話方山崎莊十郎太田三郎平寺村治郎衛ヨリ生シタルコト付右三人ヲ召出サレ速カニ約定ノ線綿ヲ原告へ渡スヘキ裁判アラソトテ請フト

引合人 世話方太田三郎平寺村治郎衛山崎莊十郎申立ノ要領

自分共張出賣買所ニ於テ明治六年十月九日十一日及ヒ十三日ノ三日間ニ明治六年十月廿九日限ノ線綿百五十駄ヲ仲買上條和助上條喜平宮下與七ニ賣付ケ約定金七百五十圓ヲ受取リ證書三十枚ヲ渡シ置キタルニ明治六年十月十五日淺野嘉平ヨリ右線綿ハ其實別ニ買主アリテ代金ハ嘉平ノ手許へ預リアルニ依リ未タ受渡ノ期限ニ至ラサントモ金子ヲ納レテ荷物ヲ受取リタキ旨相談ニ及ヘリ然レ

トモ右證書ニ名前主ノ外ハ取合ハスト記載アリ且期限前ノ事ニモアレハ旁相談ニ及ヒ難シト斷ハリタルニ嘉平ハ直チニ此事ヲ筑摩縣廳へ伺出タルニ付明治六年十月二十日同廳ヨリ自分共并仲買ヲ呼出シテ賣買荷物ノ員數及ヒ其商事ノ手續等ヲ取調ヘラレ相場ノ高下ヲ以テ期限前ニ金錢ノ取引ヲ爲スハ全ク空商ナルニ依リ吟味中ハ賣買所ノ賣買ヲ差止ル旨達セラレタリ然レトモ此差止以前ニ取組タル賣買ハ荷物ノ授受ヲ爲スモ差支ナカルヘシト心得明治六年十月二十七日現在ノ荷物限リハ之ヲ買主へ渡サント縣廳へ申出タルニ荷物悉皆取揃ハサレハ取引ヲ允ルサスト達セラレタルニ付明治六年十月二十八日其旨ヲ仲買一同ニ報知シ置タリ然ルニ嘉平ハ明治六年十月二十九日ヲ以テ和助與七ト俱ニ代金ヲ持參シ荷物ヲ受取ソトテ請フトヨリ昨日報知シタル如ク縣廳ヨリ荷物ノ取引

チ允ルサレサル上ハ其請ヒニ應シ難シト斷ハリタルニ嘉平ハ翌三十日縣廳へ伺出荷物アル分ハ授受シテ差支ナシト達セラレタリトテ再ヒ自分共へ掛合フニ付自分共ヨリモ同様伺出タルニ自分共へハ前ノ如ク荷物悉皆揃ハサレハ取引スヘカラスト口達セラレタルニ付賣買所ニ預ル所ノ諸方ノ約定金ハ駄數割チ以テ夫々返却ス可キニ決シ是亦縣廳ノ允許ヲ經テ各買主ニ返却ニ及ヒタレモ唯豐次郎初五郎ノミハ之ヲ承諾セス明治六年十二月中和助喜平與七嘉平并自分共ニ對シテ筑摩縣廳へ出訴セリ然レモ自分共ニ於テハ手形名前主ノ外一切取合ハサル約束アルニ付右兩人ノ爲メニ訴ラルヘキ理由ナシト答辨シ置キタルニ其後明治七年五月縣廳ヨリ空商ノ廉チ以テ世話方仲買共夫々贖罪金ヲ命セラレタリ

本訴ハ元來期限前ニ賣買チ差止メラレタルヨリ生シタルコトナレハ

自分共ニ於テ之ヲ奈何トモスルコト能ハス且ツ期限前直段ノ下落シタル節仲買ヨリ差添金ヲ爲サ、リシニ依リ約定ノ通り其證券ハ効ナキ者トナリタレハ旁自分共ヨリ違約金チ出ス可キ條理ナシト

判文ノ要領

仲買ハ只管責ヲ世話方ニ讓リ世話方ハ商業チ差止ラレタルカ故ニ約定チ果シ得サル旨申立ルト雖モ十月二十日以來世話方仲買一同縣廳ニ於テ取調ヲ受ケ其節口書ノ趣ハ私ニ相場チ取極メ仕切換ト唱へ空商仕又ハ空商ト辨へナカラ仲買ニ加ハリ云々ト有レハ素ヨリ空商タルチ知テ賣渡ノ約チ爲シ又ハ買次セシハ云迄モ無シ然レハ二十日以前取組ノ分ハ商品チ引渡スヘキ目的ナリシトノ申分ハ相立タス尤違約セシハ特ニ世話方ノミナラス仲買モ亦同様ニ付原告請求ノ金高千四百圓ノ内元金七百五十圓ハ預リ主ヨリ返辨シ違

約金六百五十圓ハ世話方太田三郎平外二人及ヒ仲買上條和助外二人ヨリ訴訟入費ヲ併セテ償却スヘシ但シ淺野嘉平ハ其空商タルヲ知ラスシテ取次セシノミニ付償金ヲ出スニ及ハス

大審院ニ於テ

原告惣代 太田三郎平上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所ノ裁判書ニ違約金六百五十圓ハ世話方仲買ヨリ償却スヘシトアルハ商業上ノ習慣ニ據テ手金七百五十圓ノ倍返シヲ命セラレタルニ似タリ然ラハ明治六年十月十五日綿價下落シ本馬拾駄ニ付金五百三十二圓替ニ至リタル節買主ヨリ差添金ヲナサス又證書ノ名前主ヲ闕テ被告ヨリ直チニ世話方ニ引合タルモ皆證券上ノ約定ニ背キタル者ナリ均シク是レ商業上ノ契約ニシテ一ハ其

効ヲ生シ一ハ其効ナキハ如何ノ條理ナルヤ承服シ難キ裁判ナリ

第二條

張出賣買所ノ賣買ニ關係シタル者ハ空商ノ罪ヲ受テ既ニ贖罪金ヲ出シタルニ今又償金ヲ命セラル、ハ再度ノ罰ニ涉ルノ道理ニテ益了解シ難シ

第三條

同裁判所ハ筑摩縣廳於テ世話方仲買空商取調ノ節ノ口供ニ據リ商品ヲ引渡スヘキ目的ナリシトノ申分ハ相立タスト裁判セラレタリ此意ヲ推スニ賣綿證券ハ全ク空賣買ノ運ヒヲナスマテニ用ル者ナレハ契約ノ効ナキ者ナリト看做サ、ルニ似タリ果シテ然ラハ手附金倍返ノ法モ隨ツテ行ハレサルヘキニ獨リ此廉ニ於テハ約定金七百五十圓ノ倍返シヲ命セラレタルハ何ノ理ニ由ルヤ不審ナリ然レ

トモ手附金ハ現ニ世話方ノ手ニ預カリアリ且縣廳ノ説諭ニ従ヒ成
ル可キ丈ケ穩便ニ事濟セシテ主トシ買方一同ニ熟談ノ上駄數割
ヲ以テ返却セリ依テ被告ヘモ屢々其旨ヲ申述タレモ被告ニ於テ之
ヲ肯ハス違約金ト共ニ之ヲ償却スルニ非レハ受取難シト返答セリ
元來手附金ハ被告ノ請求セサル訴外ノ金員ナレハ世話方ニ於テハ
脇竝一統ノ通り駄數割ヲ以テ之ヲ返却セシテ欲スルナリ

第四條

被告ニ於テハ必ス線綿ヲ受取ル歟若クハ損害金六百五十圓ヲ受取
シテ上等裁判所ニ請求シタルモ世話方ニ於テハ元來筑摩縣廳ノ
爲メニ商業ヲ差止メラレタレハ其約ヲ果スヲ得ヘキ様ナシ此譯
ハ初メヨリ被告ヘ通知シ被告ニ於テモ十分承知ノ事ナルニ今更世
話方ノ違約ト申成スハ不條理ナリ然ルチ東京上等裁判所ハ此申立

ナ理アリトシ仲買ト共ニ違約金ヲ償却スヘシト裁判アリタルハ不
法ノ裁判ナルヘシト思考ス

第五條

右ノ次第ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ取消シ明治八年十月中被告
ヘ渡シタル手附及ヒ違約金合千四百圓受取度其内違約金六百五十
圓ハ自分共并ニ仲買宮下與七上條和助同喜平ヨリ相渡ス可キ筈ノ
處被告ヨリ原裁判ノ執行ヲ筑摩縣廳ヘ請求セシ節與七ハ上京中ナ
リ和助喜平ハ一時金子調ヒ難キ旨申立縣廳ヨリハ嚴シク督促ヲ受
ケ據ナク仲買三名ノ分モ自分共ヨリ立替渡シ置キタルヲ以テナリ
右千四百圓ヲ受取り而シテ手附金ハ脇竝一統ノ割合ヲ以テ之ヲ還
シ且明治八年三月中東京上等裁判所ヘ喚出サレタル以來ノ訴訟入
費及ヒ明治八年十月中被告ニ渡シタル違約金ヨリ生スル利子ヲ受

取ルヘキ様ニ裁判アラソトテ請フト

被告 渡邊豊次郎佐藤初五郎代言人小倉智賢答辨ノ要領
第一條

原告ニ於テ綿價ノ下落ト名前主ノ外取合ハサル文言トテ舉テ自分共ノ違約ヲ唱フルト雖モ明治六年十月九日此賣買ヲ約シテヨリ明治九年十月二十九日ノ期限マテ未タ綿價ノ下落シタルヲ聞カス其證ハ淺野嘉平ヨリ送リタル明治六年十月二十一日ノ書狀ニ去ル十五日張出賣買所へ金子ヲ持參セシ處期日前ノ故ヲ以テ受取ラス其後ハ相場追々引上カレリトアリ是ニ據レハ世話方ノ者相場ノ騰貴シタルカ爲メニ荷物ノ引渡シニ差支ヘテ金子ヲモ受取ラス又荷物ヲモ引渡サ、リシナルヘシ焉ソソ買方ノ差添金セサルヲ責ルヲ得ンヤ又名前主ノ外取合ハサルハ證書一般ノ通義ニシテ特ニ本

訴ノ證券ニ限ルニアラス然ルニ自分共名前主ヲ閣テ直チニ世話方ニ引合タルハ讓繼ノ證書アル故ナリ訴答文例第二十八條ニ據ルニ讓證ヲ受タル者ハ其一事件上ニ於テ本人ニ代ルノ權アリトス普通ノ證券スラ猶然リ況此件ノ如キハ仲買ノ名義アル者ヨリ讓渡ヲナシテ其讓渡ヲ受ケタル者ハ現ニ其證券ヲ買ヒタル本人ナルヲヤ之ヲ如何ソ名前主ニ非ルヲ以テ違約ノ直引合トスルヲ得ンヤ

第二條

原告ニ於テ既ニ空商タルノ贖罪金ヲ出シタルニ今又償金ヲ命セラレ、ハ再度ノ罰ニ涉リタリト論スレモ右贖罪金ハ犯罪ノ爲メニ縣廳へ納メタルモノナリ今般ノ償金ハ違約ノ爲メニ出ス所ノ商事ノ金圓ナリ焉ソ之ヲ再度ノ罰金ト謂フヲ得ンヤ

第三條

原告ハ空賣買ノ故ヲ以テ違約金ヲ取消シ唯手附金ノミヲ還サント論スレモ凡ソ手附金ノ倍返シハ商法上一般ノ通義ナリ今甲乙二名アリテ甲ハ乙ヨリ賣買契約ノ手附金ヲ預ラシ乙若シ違約セハ甲ハ其金ヲ還サ、ルヘシ然ルニ甲ノ違約ニハ獨リ乙ノ納レタル手附金ヲ還スノミニシテ毫モ其違約ヨリ生スルノ損失ヲ償ハスンハ誰カ之ヲ理アリトセンヤ是レ手附金倍返シノ由テ生スル所ナリ原告今讓渡證ノ抗拒スヘカラサルヲ知テ手附金ヲ自分共へ還サント請フ上ハ右ノ條理ニ因テ償金ヲ出スハ當然タリ何ソ空賣買ヲ以テ當然ノ償金ヲ取消スコトヲ得ンヤ況ヤ自分共ニ於テハ此手違ヨリシテ現ニ金八百八十一圓二十五錢ノ損失ヲ生シタルニ於テナヤ

第四條

原告ニ於テ筑摩縣廳ノ爲メニ商業ヲ差止ラレタレハ正荷引渡ノ約

ヲ果スコトヲ得スト論スレモ嘉平ヨリ自分共へ送リタル明治六年十月二十一日ノ書簡ニ筑摩縣廳庶務課長都筑殿ヨリ嘉平へ千駄ニテモ萬駄ニテモ約定ノ通り荷物ヲ受取ルヘシト口達セラレタリト記載セリ又淺野清藏ヨリ送リタル書簡ニモ明治六年十月三十日嘉平及ヒ副戸長小松清八郎ハ筑摩縣廳へ商業差止ノ實否ヲ伺ヒタルニ決シテ正荷ノ引渡ヲ差止メタルコトヲ申渡サレタリトアリ根元同廳ノ許可ヲ得テ設立シタル賣買所ナレハ同廳ヨリ其商業ヲ差止メラル可キ謂レナケレモ畢竟世話方ノ者其社則チ犯シテ不正ノ商業ヲ爲シタルヲ以テ商業差止ノ令ヲ得タルナリ然ルニ世話方ニ於テハ自ラ作セル所ノ禍チ人ニ及ホシ獨リ手附金ヲ差戻シテ止マント欲スルハ不當ノ甚シキ者ナリ違式註違條例第五條ニ違式註違ノ罪ヲ犯シ人ニ損失ヲ蒙ラシムルハ先ツ其損失ニ當ル償金ヲ出サ

シメ後ニ贖金ヲ命ス可シトアルハ本件ノ事情ニ於テモ亦適當セル者ニ似タリ

第五條

右ニ付原告ノ違約ヨリ生スル一切ノ損害及ヒ訴訟入費ヲ受取ルヘキ様裁判ヲ得ンヲ請フト

引合人 仲買宮下與七申立ノ要領

世話方ハ明治六年十月十五日練綿相場下落ノ節自分並ニ上條和助同喜平ヨリ差添金致サ、リシ旨申立レトモ此日ハ淺野嘉平ヨリ買附綿ノ金額ヲ賣買所へ拂入レタキ旨申來ルニ付即チ嘉平並ニ和助喜平ト共ニ賣買所ニ往キ右ノ旨ヲ相談及ヒタルニ世話方於テハ賣買取引ノ期限前ナリ且社員不參ノ者アルヲ以テ受取難シト返答セリ依テ其儘引取タルヲニテ此日ノ賣買集會ニハ立合不申後ニ此日

ノ立相場ハ本馬十駄ニ付金五百三十二圓替ナリシト承知セリ尤賣買所ノ集會ハ賣方買方幾名以上出頭スルニアラサレハ其日ノ相場ヲ立ルヲ能ハサルトノ取極ハ之レナシト雖モ然レトモ當時練綿ノ相場ハ松本市中并隣國モ一般騰貴セシニ獨リ賣買所ノミ下落スル理由ナシ故ニ此相場ハ賣買所ニテ勝手ニ取拵ヘタルモノト思考ス

大審院ニ於テ條理ヲ推究シ辨明スルヲ左ノ如シ

第一條

原告ニ於テハ明治六年十月十五日練綿相場下落ノ節仲買ヨリ差添金致サ、ルヲ以テ證券ノ効ナシト申立被告於テハ當時追々相場引上リ差添金致ス程ノ下落ニ至ラス若シ眞ニ下落ニ至リシナラハ原告於テ證券ノ明文ニ隨ヒ手附金ヲ以テ償フ可キ筈ナルニ手附金ハ

返却ス可シト云フヲ以テ其下落ニ至ラザリシヲ證ス可シト答辨セ
 リ然レトモ此答辨ハ不條理ナリトス何トナレハ賣買所ハ隔日商會
 ナ開キ其集會シタル賣買人ノ賣買シタル實際ニ依リ自然ニ相場ノ
 昂低ヲ生スル者ヲ張出賣買所ノ相場ト稱スヘキ者ニテ他所ニ於テ
 賣買シタル相場ヲ以テ張出賣買所ノ相場ノ證ト爲スヲ得ス若シ
 他所ノ相場ヲ以テ張出賣買所ノ相場ニ同シトセハ賣買所ニ於テ別
 ニ相場ヲ立ツルニ及ハサルハ論ヲ待タサルヲナリ故ニ此證券ニ記
 スル所ノ相場ハ本馬十駄ニ付金五百五十圓替ニシテ原告申立ル所
 ノ明治六年十月十五日ノ相場ハ十駄ニ付金五百三十二圓ナリ之ヲ
 仲買官下與七ニ問フニ原告ノ云フ所ト符合ス然レハ此日ノ相場ハ
 下落セシヲ判然タリ且與七ハ此日ノ商會ニ出頭セサルヲ以テ其相
 場ハ勝手ニ立テタル相場ナリト申立ツレトモ賣買雙方ノ者幾人以

上集會セサレハ相場ヲ立ルヲ得サルトノ取極メナキ上ハ己レノ
 出頭セカリシハ己レノ出頭セカリシ迄ニテ之ヲ以テ賣買所ノ相場
 ナ取消スヲ得ス故ニ原告於テ證券ノ効ナシト申立ルハ條理ニ適
 當スル申立ナリトス

第二條

原告於テハ線綿賣買ノ受渡ヲ爲ス可キ期限ハ明治六年十月二十九
 日ナルニ其期限前ナル明治六年十月二十日元筑摩縣廳ヨリ張出賣
 買所ノ營業ヲ差止ラレ且其差止以前賣買ノ約ヲ結ヒタル分モ荷物
 悉皆取揃ハサレハ受渡ヲナスヲ得サル旨口達セラレタルヲ以テ
 賣綿引渡ノ義自分共ノ力ニ及ハスト申立被告於テハ張出賣買所ハ
 營業ヲ差止メラレタリト雖モ其節淺野嘉平ヨリ元筑摩縣廳へ伺ヒ
 タルニ差止以前賣買ノ契約ヲナシタル分ハ荷物受渡ヲナストモ苦

シカラスル旨口達セラレタルニ原告於テ賣買ノ約ヲ果サスト申立
 ルト雖モ元筑摩縣廳ノ達書アルニアラサレハ畢竟雙方トモ無證據
 ノ申立ニシテ元筑摩縣廳於テ張出賣買所ノ營業ヲ差止メタルノ意
 ハ將來ノ營業ノミチ差止メタル歟又ハ既ニ賣買ノ約ヲナシタリト
 モ未タ荷物受渡ヲ爲サ、ル分モ併セテ其受渡ヲ差止メタル歟ヲ證
 スルニ足ラストス因テ之ヲ事實ニ徵スルニ明治七年十二月二十日
 元筑摩縣廳ヨリ司法裁判所へノ回答書中ニ綿受渡期限前嘉平ノ願
 立ニ依リ商業差止メ世話方仲買一同取糾シ結局仕切返シ空商ノ場
 ニ陥リ夫々處刑申付候程ノ義ニテ今更生綿無之ハ勿論ニ候へハ能
 々前後ヲ顧ミ出訴ノ本意相貫候様願立可申旨申論云々トアルニ因
 レハ是元筑摩縣廳ニテ張出賣買所ノ營業ヲ差止メタルハ將來ノ營
 業ノミチ差止メタルニアラスシテ差止以前ノ契約ニ係ルモノヲモ

差止タルノ證ナリトス又最初被告ヨリ元筑摩縣廳へ出訴セシニ縣
 廳ノ裁判延引スルニ因テ被告及ヒ其代言人ナル水野村次ハ司法裁
 判所ニ越訴シテ司法裁判所ノ審判ヲ請求スルヲ再三ニ及ヒタリ其
 越訴シタル明治七年五月廿二日明治七年六月廿五日明治七年十一
 月十五日ノ願書ニ元筑摩縣廳ニ於テハ綿綿取引ノ事ニ付テハ取糾
 ヲ爲サ、ルヲ申立タリ是亦元筑摩縣廳ニ於テハ差止以前ノ契約
 ニ係ルモノヲモ差止メタルノ證ナリトス如何トナレハ若シ被告言
 フ所ノ如ク差止以前ニ賣買ヲ約シタル分ハ差止後ト雖モ其契約ヲ
 果スニ妨ケナシトセハ縣廳ニ於テハ差止以前ノ契約ニ係ルモノハ
 勝手ニ荷物受渡シヲナス可シト裁判スル迄ニシテ裁判ノ延引ス可
 キ理由ナク又被告於テモ司法裁判所ニ越訴ス可キ理由ナケレハナ
 リ之ニ因テ之ヲ觀レハ元筑摩縣廳ニ於テ張出賣買所ノ營業ヲ差止

メタルハ特ニ將來ノ營業ヲ差止メタルノミニアラスシテ其差止メ以前ニ結約シ當時賣買ノ取引ヲ爲ス可キ期限前ニ係ル分ヲモ差止メタルヲ判然ナリトス既ニ此契約ノ根元タル賣買ノ取引ヲ爲ス可キ期限前ニ於テ其營業ヲ差止メラレタル上ハ原告假令賣方ノ仲買ヲシテ其契約ヲ果サシメント欲スルトモ爲スヲ得可カラサルノ事ナリトス故ニ原告ハ賣買差止メノ一事ヲ以テ契約ノ如何ニ拘ラス其義務ヲ遂クルヲ爲シ能ハスシテ其未タ契約ヲナサ、ルノ始メニ復ルヨリ外他ニ爲スヘキノ途ナシトス然レハ被告於テ原告ヲ違約者トナシ之ニ違約ノ償金ヲ要ムルノ權利ナク原告ニ於テ自己ノ違約セシニアラサレハ償金ヲ出スノ義務ナシトス故ニ原告ニ於テ賣買期限前元筑摩縣廳ヨリ營業ヲ差止メラレタル上ハ賣綿引渡ノ義自分共ノ力ニ及ハスト申立ルハ至當ノ條理ナリトス然ルニ東京

ノ上等裁判所ニ於テ原告ニ違約金ヲ出ス可シト裁判セシハ條理ニ適セサル裁判ナリトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スルヲ左ノ如シ

原告太田三郎平外二名ハ張出賣買所ニ於テ仲買宮下與七上條和助上條喜平ヨリ明治六年十月中九日十一日十三日都合三度ニ約定金トシテ受取タル七百五十圓ヲ被告渡邊豊次郎外一名ニ還付ス可キノ義務アリトス

被告渡邊豊次郎外一名ハ仲買宮下與七上條和助上條喜平ノ手ヲ經テ明治六年十月中九日十一日十三日都合三度ニ張出賣買所ヨリ買附タル線綿ニ付原告太田三郎平外二名ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルノ

權利ナシトス

右ニ付東京上等裁判所ニ於テ明治八年六月廿三日ノ裁判ニ依リ明治八年十月中原告三郎平外二名及ヒ仲買與七和助喜平ヨリ被告豊次郎外一名へ渡セシ金千四百圓ノ内被告豊次郎外一名ハ約定金七百五十圓ヲ引去リ殘金六百五十圓ノ内原告三郎平外二名ニ屬ス可キ金員ニ明治八年十月ヨリ一箇年ニ付百分ノ六ノ利足ヲ加ヘ原告三郎平外二名へ還ス可シ而シテ原告三郎平外二名於テ仲買與七和助喜平へ立替遣シタル金員ハ右ノ仲買三名ヨリ受取ル可シ
被告豊次郎外一名ハ明治八年三月以來ノ訴訟入費ヲ原告三郎平外二名へ渡スヘシ

第四十二號

○繰綿賣買違約償金上告ノ判文明治八年八月廿八日上告
明治九年十月十六日申渡

原告

長野縣下信濃國筑摩郡
南深志町商

宮下與七

被告

新潟縣下越後國頸城郡
高田春日町商

渡邊豊次郎

被告

新潟縣下越後國頸城郡
高田吳服町商

佐藤初五郎

新潟縣下越後國頸城郡
荒屋村平民

被告代理人

小倉智賢

東京上等裁判所ノ審判

原告 渡邊豊次郎佐藤初五郎ヨリ張出賣買所世話方太田三郎平外二名仲買宮下與七外二名ニ對シ筑摩縣廳へ初告ノ要領
明治六年十月廿二日

自分共明治六年十月中筑摩縣下信州松本ノ商淺野嘉平ニ托シ同所張出賣買所ノ仲買宮下與七上條和助上條喜平ノ手ヲ經テ右賣買所ヨリ線綿百五十駄ヲ買取リ約定金七百五十圓ヲ納レ左ノ證書三十枚及ヒ淺野嘉平ノ添書ヲ受取リ

證書

智四百五十三番
十月廿九日限

一 中市上銘線綿本馬五駄
約定金二十五兩也代金

但本馬十駄ニ付
五百五十兩替

右買入荷物請渡正ニ承リ置候處如件
明治六年酉十月十一日

世話方

買主

中澤屋喜平殿

裏書 金預リ山崎莊十郎仕切判押印ニケ所アリ
一期日品代金不殘世話方へ受取可申品物渡方ノ儀ハ
期日後十日ノ間日割ヲ以テ帳順ニ相渡シ申候事
但此印紙紛失ハ何方へ參リ候
共名前主外一切取合不申候事
一期日前直段高下ニ置候約定金ニ相叶候様差添金可致萬一差添
金不致候ハ預リ置候約定金ニ無斷償可申然ル上ハ後日此
印紙證書ニ
不相成事

世話方

添書

記

印紙判

一 中市線綿本馬百五十駄

別紙印紙之通

右ハ張出シ賣買所へ仲買相頼買次差上申候當月廿九日約定書ノ
通金子御持參無之候得ハ違約ニ相成候且又荷物不相渡節ハ約定
金相戻シ候上違約金可差出候賣買所極候也

信州松本本町

明治六百十月

淺野嘉平仕切判

越後高田春日町

渡邊豊次郎殿

佐藤初五郎殿

右授受ノ期日ニ拂入ル可キ残り金額ハ之ヲ嘉平へ預ケ置キ自分共

ハ新潟縣ニ歸リ夫々賣先ヲ約シ手附金ヲ受取ル内ニ嘉平ハ賣買所
世話方寺村治郎衛山崎莊十郎太田三郎平へ期限前ニ代價ヲ納レテ
荷物ヲ受取シテ掛合シニ世話方ハ渡ス可キ荷物無シト返答スル
ニ付嘉平ハ之ヲ筑摩縣廳ニ願出タルニ縣廳ハ明治六年十月二十日
ヲ以テ賣買所ノ營業ヲ差止メラレタリ然レモ右差止以前ニ結約シ
タル賣買ハ差支へアルマシキ條理ニ付嘉平ハ明治六年十月廿九日
ノ期限ニ至リ喜平和助與七ヲシテ残り金額ヲ賣買所へ出サシメタ
ルニ世話方ハ縣廳ノ調中ニ付取引シ難シト返答スルニ依リ嘉平ハ
之ヲ縣廳へ伺ヒタルニ營業差止以前ニ係ル約定ハ取引シテ苦シカ
ラスト達セラレ又世話方ニ於テモ明治六年十一月八日マテニハ荷
物ヲ引渡ス可シト返答セリ依テ其後再三世話方仲買へ談判ニ及フ
ト雖モ取引ノ約ヲ果サハルニ付自分共ハ一旦歸縣セシニ賣先ヨリ

嚴シク催促セラレ據ナシ夫々違約金ヲ出シテ之ヲ破談セリ其金員合テ六百五十圓外ニ才覺金利息二百六圓二十五錢并松本引合中ノ雜費二十五圓餘都合金八百八十一圓餘ナリ之ヲ仲買并ニ世話方ヨリ自分共へ償却スル裁判アラソクヲ請フ

被告 宮下與七上條和助上條喜平答辨ノ要領

自分共淺野嘉平ノ頼ニ依テ張出賣買所ヨリ繰綿百五十駄ヲ同人へ買次キ遣ハシタルニ爾後未タ其受渡ノ期限ニ至ラサルニ先ツテ嘉平代金ヲ持參シ荷物ヲ受取ソクヲ請フニ付自分共乃チ嘉平ト共ニ賣買所ニ往キ此旨ヲ言ヒ入レタルニ同所ノ世話方ハ引渡ス可キ荷物ナキニヨリ金子ヲ受取難シト返答シタル故乃チ期限ニ至ルヲ待テ再ヒ之ヲ掛合ヒタルニ世話方ハ約ニ背テ荷物ヲ引渡サ、ルニヨリ遂ニ今般ノ訴訟ニ及ヒタルナリ故ニ違約ノ責ハ自分共ニ在ラス

專ラ世話方ニ在ルニ付世話方ヨリ違約金ヲ出スヤウニ命セラレソクヲ請フ

爾後東京上等裁判所ニ出訴スルニ至ルマテノ履歷

筑摩縣廳ハ右訴答ノ書面ヲ受取リ一應審問ノ末明治六年十二月廿八日ニ此訴訟ノ證據トスル淺野嘉平ノ添書ニハ日付ケ無キニ付明治六年第二百十二號ノ布告ニ據レハ裁判上ノ證據トシ難ク又世話方ノ證書ニ名前主ノ外一切取合不申トノ明文モアル上ハ豐次郎初五郎ヨリ世話方ヲ被告トスヘキ權利無キヲ以テ裁判ニ及ヒ難シト口達シ乃チ其訴狀ヲ却下セリ是ニ於テ豐次郎初五郎ハ嘉平ノ添書ニ日付ヲ記入セシメ明治七年三月三日世話方ヲ除キ與七和助喜平及ヒ嘉平ニ對シ再ヒ筑摩縣廳へ出訴シタルニ右三名ノ仲買ハ之ニ答辨シテ曰ク原告人豐次郎等現ニ世話方ノ證書アルニ世話方ヲ相

手取ラスシテ専ラ自分共ノミニ對シ訴テナスハ其理ナシト思料ス
レヒ一旦買次シタルヲナレハ自分共ヨリ世話方へ掛合ヒ之ヲシテ
豐次郎初五郎ト熟議セシムヘシト申出タリ然ルニ原告人豐次郎等
モ世話方ヲ以テ違約ノ本人ト思量シ重テ左ノ讓證書ヲ

記

中市線綿

本馬百五十駄

別紙印紙ノ通三十枚

右ハ御頼ニ付高田渡邊豐次郎殿佐藤初五郎殿行張出シ賣買所ヨ
リ拙者共名目ヲ以テ買入約定金請取御讓リ渡申候受渡ハ規則ノ
通ニ御座候

明治六年十月十三日

米屋 與七仕切判

中澤屋 和助仕切判

淺野屋 嘉平殿

中澤屋 喜平

右ノ通仲買衆三人相頼買次御讓リ渡シ申上候退テ別紙添書御渡
可申候

明治六年十月十三日

淺野屋 嘉平仕切判

渡邊 豐次郎殿

佐藤 初五郎殿

證據トシ明治七年十月中世話方へ對シ筑摩縣廳ニ追訴シタルニ縣
廳ニ於テハ世話方ノ證書ニ違約金ノ事ヲ記載セサルヲ以テ此追訴
ハ明治四年九月諸品賣買取引心得方ノ布告ニ悖ル者ナリト達シテ
採用セス然シテ最初原告人ヨリ與七和助喜平及ヒ嘉平ニ對シタル
本訴ノ裁判モ亦遅延スルニ付原告人豐次郎等ハ明治七年十一月十

五日司法裁判所へ出訴セリ依テ同裁判所ハ筑摩縣廳へ掛合ヒ往復
數回ノ末明治八年一月中途ニ司法卿ノ決テ取り司法裁判所ニ於テ
之カ審理ヲ始メタルニ明治八年五月司法裁判所廢セラレシニ付東
京上等裁判所代ツテ之ヲ審判ス其始末左ノ如シ

原告 渡邊豊次郎佐藤初五郎告訴ノ要領

練綿引渡違約ノ一件ニ付嘉平并ニ仲買三名ニ於テハ屢世話方ニ對
シ荷物引渡ヲ督促スレトモ世話方ハ明治六年十月二十日筑摩縣廳
ヨリ張出賣買所ノ營業ヲ差止ラレタル旨ヲ唱へ此引渡ヲ肯セサル
ニ付嘉平ヨリ縣廳へ伺ヒタルニ營業差止以前取組ノ分ハ取引致ス
トモ苦シカラスト達セラレタリ然レハ世話方ニ於テ荷物ヲ引渡ス
可キハ當然ノ義ナリ且既ニ讓證書ヲ作テ自分共へ渡シ置キタル上
ハ違約ノ責ニ任スへキ謂レナシト云ヒ世話方ハ張出賣買所ノ營業

ヲ差止メラレタル上ハ差止以前取組ノ分モ荷物引渡ヲ爲スヲ得
サル旨縣廳ヨリ達セラレタルハ世話方ニ於テ賣買ヲ遂ケサスルコ
能ハスト申述種々談判ニ及フト雖モ終ニ約定ヲ果サス然ルニ自分
共ニ於テハ右買附ノ綿ヲ新潟縣ノ商人ニ賣附ケ夫々手附金ヲ取置
タルニ付右賣買所ノ違約ノ爲メニ自分共ハ據ナシ該商へ違約金ヲ
出シタリ依テ約定ノ練綿ヲ受取ル歟又ハ右違約ヨリ生シタル損失
金六百五十圓ト約定金七百五十圓トヲ受取ルヤウニ裁判アラント
ヲ請求ス

被告 淺野嘉平仲買上條和助上條喜平宮下與七答辨ノ要領
自分共ハ屢々世話方ニ對シテ練綿ノ引渡ヲ催促シタレモ世話方ニ
於テハ筑摩縣廳ヨリ張出賣買所ノ營業ヲ差止メラレタル旨ヲ唱へ
之ヲ引渡スヲ肯セサルヲ以テ嘉平ヨリ縣廳へ伺ヒタルニ營業

差止以前ノ取組ニテ荷物有之分ハ受渡若シカラスト違セラレタリ
 依テ其旨ヲ世話方へ申入レタルニ猶ホ荷物引渡ヲ肯セズ遂ニ今般
 ノ違約ニ至リタルナリ抑世話方ハ賣買雙方ノ間ニ立テ取引ノ世話
 ナシ買主ノ差入ル、約定金ヲ預リ自己ノ名前ヲ以テ證書ヲ出ス
 者ナレハ若シ取引上ニ不都合ヲ生スルニ於テハ世話方其責ニ任ス
 ルヲ當然ナルヘシ然レハ此違約ハ世話方ニアリテ自分共ニ在ラス
 引合人 世話方太田三郎平寺村治郎衛山崎莊十郎辨解ノ要
 領

自分共ニ於テハ賣買期限前荷物引渡ノ儀ニ付嘉平ヨリ筑摩縣廳へ
 願出タルニ依リ賣買所一同ノ者取調ヲ受ケ終ニ縣廳ヨリ商業差止
 レテ手附金ハ夫々買主へ返却ス可キ旨命セラレタルヲ以テ賣買ヲ遂
 サスルハ自分共ノ力ニ及ハス故ニ違約ノ償金ヲ出ス可キ條理ナシ

判文ノ要領

仲買ハ只管責ヲ世話方ニ譲リ世話方ニ於テハ商業ヲ差止ラレタル
 カ故ニ約定ヲ果シ得サル旨申立ルト雖モ十月廿日以來世話方仲買
 一同縣廳ニ於テ取調ヲ受ケ其節口書ノ趣ハ私ニ相場ヲ取極メ仕切
 換ト唱へ空商仕又ハ空商ト辨へナカラ仲買ニ加ハリ云々ト有レハ
 素ヨリ空商タルヲ知テ賣渡シノ約ヲナシ又ハ買次セシハ云迄モ無
 シ然レハ廿日以前取組ノ分ハ商品ヲ引渡スヘキ目的ナリシトノ申
 分ハ相立タス尤違約セシハ特ニ世話方ノミナラス仲買モ亦同様ニ
 付原告請求ノ金高千四百圓ノ内元金七百五十圓ハ預リ主ヨリ返辨
 シ違約金六百五十圓ハ世話方太田三郎平外二人及ヒ仲買上條和助
 外二人ヨリ訴訟入費ヲ併テ償却スヘシ但シ淺野嘉平ハ其空商タル
 ヲ知ラスシテ取次セシノミニ付償金ヲ出スニ及ハス